

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	土出 愛子	実務経験と その関連資格	看護国家試験対策 講師 看護師			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の人体についての知識の基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。解剖生理学Ⅱでは、呼吸・循環機能について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
講義終了時の終講試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 早わかり生理学ハンドブック (ナツメ社)						
《授業外における学習方法》						
予習復習を毎回丁寧に行う。暗記のみでなく、解剖図を記入し、そこに機能を記入してまとめていく。暗記し理解する。						
《履修に当たっての留意点》						
各部位や器官の名称については確実に覚えること 機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の構造について説明できる。	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第3章 呼吸器系の構造			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	内呼吸と臥位呼吸、呼吸器と呼吸運動について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第3章 内呼吸と臥位呼吸、呼吸器と呼吸運動			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器量について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第3章 呼吸器量			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ガス交換後ガスの運搬、肺の循環と血流について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第3章 ガス交換後ガスの運搬、肺の循環と血流			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸の調節について説明できる。	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第3章 呼吸の調節			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の病態生理について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第3章 呼吸器系の病態生理		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の構造について説明できる。	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第4章 心臓の構造		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の機能について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第4章 心臓の機能		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢循環器系の構造について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第4章 末梢循環器系の構造①		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢循環器系の構造について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第4章 末梢循環器系の構造②		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液の循環の調節について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第4章 血液の循環の調節		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	リンパとリンパ管について説明ができる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第4章 リンパ系の構造		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器系の病態生理について説明ができる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第4章 循環器系の病態生理		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器系の病態生理について説明ができる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	第4章 循環器系の病態生理		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器・循環器のポイントを説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学IV		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	土出 愛子	実務経験と その関連資格	看護国家試験対策 講師 看護師			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の人体についての知識の基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 解剖生理学IVでは、消化・吸収機能を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
講義終了時の終講試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 早わかり生理学ハンドブック (ナツメ社)						
《授業外における学習方法》						
テキストと参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。 授業終了後に問題集(事前配布)と国家試験の過去問を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問し、その理解を高めること。また、積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。						
《履修に当たっての留意点》						
①知識は楽にして身に付きません。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要です。 ②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなりますよ。 ③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れません。本気に看護を目指しているのであれば、頑張れ!						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器官の各部の名称を説明できる。消化器系の構成と食物の消化のメカニズムを説明できる。	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第2章 消化器系の解剖①:消化器の構成と機能と構造			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の機能と構造を説明できる。	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第2章 消化器系の解剖②:口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の機能と構造を説明できる。	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第2章 消化器系の解剖③:口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	咀嚼と唾液、嚥下運動、胃の機能と構造を説明できる。	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第2章 咀嚼と唾液、嚥下運動、胃			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養の消化と吸収について説明できる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。 友達同士で問題を出し合いながら学習すること。	
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養の消化と吸収			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	膵臓の構造と機能について説明できる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。友達同士で問題を出し合いながら学習すること。
		各コマにおける授業予定	第2章 膵臓の構造と機能		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	肝臓と胆嚢の構造と機能について説明できる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。友達同士で問題を出し合いながら学習すること。
		各コマにおける授業予定	第2章 肝臓と胆嚢の構造と機能		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器の機能・構造をまとめることができる	テキスト、参考書	テキストを読むこと。友達同士で問題を出し合いながら学習すること。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	安東 弥美	実務経験とその関連資格	実務: 医科大学附属病院、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター 資格: 看護師、介護支援専門員			
《授業科目における学習内容》						
看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。また、看護師としての基本となる姿勢・考え方や、どのような援助が人のためになるのかまたならないのかを学び、看護観形成の基礎を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
ポートフォリオ(50%) 終講試験(50%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
看護学概論(医学書院)、看護覚え書きー看護であること・看護でないことー(現代社)、看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)						
《授業外における学習方法》						
テキストを読み、重要と考えた点をマーカーし要約する。 プロジェクト学習では、大切な人の観察や課題プリントに取り組む。また各自のテーマに添った文献検索や学習を行う。自身で課題発見し、解決策を見出す。						
《履修に当たっての留意点》						
この科目は、看護師の基本姿勢を形成するためにある。真剣に取り組んでほしい。他人ごとではなく、将来なりたい看護師像を描きながら、積極的に課題に向かってほしい。この科目は答えが決まっていないこともある。課題も自分で探していく。楽しみでもありますが、苦難もあります。それも含めてやるべきことを後回しにせず実施し、学ぶことを楽しんでください。提出物は期限厳守。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	一般的な看護の歴史と定義がまとめられる	テキスト 授業プリント	テキストを読んで受講する。	
		各コマにおける授業予定	看護への導入 看護の歴史 看護の主要概念「看護とは」			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	今まで考えていた人間と受講後の人間の捉え方の相違を記述できる	テキスト 授業プリント	課題を行う。(人間とは何か)	
		各コマにおける授業予定	看護の対象である人間理解 看護の主要概念「人間とは」			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	人間の健康は環境との相互関係にあることが説明できる。	テキスト 授業プリント	課題を行う。(今自分は健康か)	
		各コマにおける授業予定	看護の対象である人間理解 看護の主要概念「健康とは」 「環境とは」 ライフサイクルと健康			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発達段階、発達課題、健康段階の名称と特徴を他者に説明できる。	テキスト 授業プリント	課題を行う。	
		各コマにおける授業予定	発達段階、発達課題とは 健康段階の特徴と看護			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	大切な人の健康を守るプロジェクトの意義が言える。	テキスト 授業プリント	自分の大切な人を決定する。 大切な人をプリントをもとに観察し記入し来る。	
		各コマにおける授業予定	大切な人の健康を守るプロジェクト:①プロジェクト学習とは			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	大切な人の健康を守るプロジェクトのテーマ・ゴールが設定できる。	テキスト 授業プリント	大切な人をプリントをもとに観察し記入し来る。追加の観察・学習・文献検索
		各コマにおける授業予定	大切な人の健康を守るプロジェクト:①テーマ・ゴールの設定		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	テーマ・ゴールを再考するために何の情報(知識)が不足しているかがわかる。	テキスト 授業プリント	大切な人をプリントをもとに観察し記入し来る。追加の観察・学習・文献検索
		各コマにおける授業予定	大切な人の健康を守るプロジェクト:②テーマ・ゴールを再考・計画立案		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	大切な人の課題が明確になる。	テキスト 授業プリント	大切な人をプリントをもとに観察し記入し来る。追加の観察・学習・文献検索
		各コマにおける授業予定	大切な人の健康を守るプロジェクト:③情報リサーチ 課題発見		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	テーマ・現状・課題・計画・具体策の下書きができる。	テキスト 授業プリント	下書き
		各コマにおける授業予定	大切な人の健康を守るプロジェクト:④制作 (模造紙1人1枚に記載し発表資料を作成する)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	効果的な発表資料(模造紙)を完成できる。	テキスト 授業プリント	発表シナリオ作成
		各コマにおける授業予定	大切な人の健康を守るプロジェクト:⑤制作 (模造紙1人1枚に記載し発表する)		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	他者に伝えたいことが伝わるように、根拠をもって論理的に伝えられる。	テキスト 授業プリント	発表後の振り返りをまとめ、凝縮ポートフォリオを作成する
		各コマにおける授業予定	大切な人の健康を守るプロジェクト:⑥プレゼンテーション(模造紙1人1枚に記載し発表する)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護師になぜ倫理観が重要なのか述べることができる。	テキスト 授業プリント	テキストを読む
		各コマにおける授業予定	看護実践における倫理、看護場面における倫理的言動について		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護における質保証に欠かせない要件について述べるができる。	テキスト 授業プリント	テキストを読む
		各コマにおける授業予定	看護実践に欠かせない要件、安全性と安楽性、自立の促進、尊厳の擁護		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護過程の意義を理解し、科学的根拠の必要性を述べることができる	テキスト 授業プリント	テキストを読む
		各コマにおける授業予定	看護過程とは、クリティカルシンキング、科学的根拠を追求する態度		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護観とは何か理解し、自己の考えをまとめることができる。	テキスト 授業プリント	看護観をまとめる
		各コマにおける授業予定	①看護観とは、看護理論家の「看護とは」、看護観の文章化 ②終講試験(50分)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	基本技術論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年生
担 当 教 員	松下 有実子 尾形いずみ	実務経験と その関連資格	松下:精神科病棟で看護師として勤務 尾形:腎・泌尿器・消化器外科病棟で勤務。その後、呼吸器・循環器内科病棟で勤務			
《授業科目における学習内容》						
松下:看護の基盤となる人間関係形成に大きく影響を及ぼすコミュニケーションの意義と方法について理解する。 尾形:スタンダードプリコーション、感染予防技術の原則について理解し、基本的な感染防止のための技術を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
松下:終講試験・レポート(50%) 尾形:終講試験・レポート(50%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
基礎看護技術 I・II(医学書院) 看護がみえる①基礎看護技術(メディックメディア) 看護につなげる形態機能学(メヂカルフレンド社)						
《授業外における学習方法》						
松下:日常生活において、その場に応じたコミュニケーションを意識し振り返る習慣をつけましょう。 尾形:学習したことを自分の日常に取り込みながら、適切な感染防止の知識と技術を修得できるように取り組んでください。						
《履修に当たっての留意点》						
松下:講義で得られたことを活用しながらコミュニケーションをとり、自分が相手にどのような影響をもたらすのかをよく考えて取り組みましょう。 尾形:感染を未然に防ぐ知識と技術はあらゆる看護の領域において基礎になります。なぜそうするのか、考えながら取り組みましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護技術とは何かを述べるができる。	基礎看護技術 I (医学書院)		テキストの該当する項目を授業までに予習し、授業後は意識して使用すること
		各コマにおける授業予定	①看護技術を学ぶにあたって ②看護技術の特徴			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護におけるコミュニケーションの意義と目的について理解し、意識してコミュニケーションをとることができる。	基礎看護技術 I (医学書院)		テキストの該当する項目を授業までに予習し、授業後は意識して使用すること
		各コマにおける授業予定	①コミュニケーションとは ②看護・医療におけるコミュニケーション			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの要素とプロセス、手段、ミスの原因について知り、実際に活用しながらコミュニケーションをとることができる。	基礎看護技術 I (医学書院)		テキストの該当する項目を授業までに予習し、授業後は意識して使用すること
		各コマにおける授業予定	①コミュニケーションの構成要素と成立過程 ②ミスコミュニケーション			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	接近的行動について理解し、自己のこれまでのコミュニケーションの特徴を振り返る。また接近的行動を実践することができる。	基礎看護技術 I (医学書院)		テキストの該当する項目を授業までに予習し、授業後は意識して使用すること
		各コマにおける授業予定	①接近的コミュニケーションの原理 ②接近的行動の前提となる基本的な態度 ③接近的行動と非接近的行動			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護における効果的なコミュニケーション技術を実践する。また、双方を尊重したコミュニケーションを使用することができる。	基礎看護技術 I (医学書院)		テキストの該当する項目を授業までに予習し、授業後は意識して使用すること
		各コマにおける授業予定	①傾聴・情報収集・説明の技術 ②アサーティブネス			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 コミュニケーション障害がある人への対応について理解し、特徴を捉えながら実践することができる。	基礎看護技術 I (医学書院)	テキストの該当する項目を授業までに予習し、授業後は意識して使用すること
	各コマにおける授業予定	コミュニケーション障害がある人への対応		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 プロセスレコードを用いて、自己のコミュニケーションを客観的に捉え、分析することができる。	基礎看護技術 I (医学書院)	テキストの該当する項目を授業までに予習し、授業後は意識して使用すること
	各コマにおける授業予定	プロセスレコードを用いて相互作用の過程を深く分析する		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 感染防止の基礎知識を学び、感染防止における看護師の役割と責務を理解することができる。	基礎看護技術 I (医学書院)	テキストの関連する箇所できづきや疑問点をチェックしておく。
	各コマにおける授業予定	1. 感染とは 2. 院内感染防止の基礎知識 3. 感染防止における看護師の役割と責務		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 標準予防策について理解することができる。	基礎看護技術 I (医学書院)	テキストの関連する箇所できづきや疑問点をチェックしておく。事前学習をもとに手洗いやマスクの手順を確認しながら実施する。
	各コマにおける授業予定	1. 標準予防策とは 2. 標準予防策の実際		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 標準予防策の実際	基礎看護技術 I (医学書院)	マスクの着脱や手指衛生に取り組み、自分の課題を明確にしておく。
	各コマにおける授業予定	1. 衛生的手洗いの手順と留意点 2. 個人防護具の着脱の手順・留意点		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 感染経路別予防策とその実際について理解することができる。	基礎看護技術 I (医学書院)	テキストの関連する箇所できづきや疑問点をチェックしておく。事前学習をもとに手洗いやマスクの手順を確認しながら実施する。
	各コマにおける授業予定	1. 感染経路別予防策とは 2. 感染経路別予防策の実際(接触予防策)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 感染経路別予防策の実際(接触予防策・空気予防策)について理解することができる。2. 医療従事者としての感染予防の方法を理解する。	基礎看護技術 I (医学書院)	自分が行っている感染予の方法と医療従事者としての感染予防の方法の違いについてまとめておく。
	各コマにおける授業予定	1. 感染経路別予防策(接触予防策・空気予防策) 2. 医療従事者としての感染予防の方法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 標準予防策としての手指衛生と個人防御用具の着脱ができる。	基礎看護技術 I (医学書院)	手指衛生と個人防護具の着脱手順と留意点を確認しておく。演習を行うにための必要物品を準備しておく。
	各コマにおける授業予定	標準予防策としての手指衛生・個人防護具の着脱演習		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 感染性廃棄物の取り扱い	基礎看護技術 I (医学書院)	自宅でのごみ出しのルールについてまとめておく。テキストの関連する箇所できづきや疑問点をチェックしておく。
	各コマにおける授業予定	1. 感染性廃棄物とは 2. 感染性廃棄物の取り扱いの実際		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 コミュニケーションと感染防止の技術について、学びを記述し、まとめることができる。	基礎看護技術 I (医学書院)	テキストの該当する項目を授業までに予習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	生活援助論 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次	学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	時岡良子／昼神順美子	実務経験と その関連資格	時岡:看護師・助産師・保健師:病院にて助産業務、看護専門学校にて看護・助産教育 昼神:昼神:看護師、助産師		

《授業科目における学習内容》

日常生活に必要な活動・運動の援助技術、生活環境を整える援助技術、睡眠、休息を促進する援助技術を学ぶ。ボディメカニクスを活用してベッドメイキングやシーツ交換、体位変換や移乗・移送の技術を習得する。

《成績評価の方法と基準》

技術テスト20%、演習レポート15%、終講試験65%で評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

＜使用教材＞①基礎看護技術 I (医学書院)・基礎看護技術 II (医学書院) ②看護につながる形態機能学(メヂカルフレンド社) ③看護がみえる ①基礎看護技術(メディックメディア)
 ＜参考図書＞①根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)

《授業外における学習方法》

1. 人を取り巻く環境は、看護を学ぶ上で全ての基本となるため、予習・復習はもちろん、技術練習は主体的に行うこと
2. 体位変換や移乗の技術演習には、事前レポートを提出後、演習にのぞむこと。演習後は事後レポートを提出すること。

《履修に当たっての留意点》

放課後や休み時間を利用して主体的に技術の練習を行うこと。演習は積極的に参加すること。
 レポートは必ず指定された形式で完成させて期日厳守の上提出すること。守れない場合は加点対象にはならない。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	人を取り巻く環境について説明できる	テキスト	テキストの関連する箇所をノートにまとめる
	各コマにおける授業予定	人にとって環境の意味、病床環境に関わる基礎知識 病室の環境とアセスメント		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	患者を取り巻く病床環境について説明ができる	テキスト 学習ノート 演習ができる準備(白衣/身だしなみ)	テキストの関連する箇所をノートにまとめる
	各コマにおける授業予定	ベット周囲の環境整備の実際		
第3回 演習形式	授業を通じての到達目標	患者にとって安全で安楽なベッドを作成するための基本が理解できる	テキスト 学習ノート 演習ができる準備(白衣/身だしなみ)	事前に学習した手順書や留意点等をレポートにまとめる
	各コマにおける授業予定	ベットメイキングの演習		
第4回 演習形式	授業を通じての到達目標	患者にとって安全で安楽なベッドを作成することができる	テキスト 学習ノート 演習ができる準備(白衣/身だしなみ)	追加修正したレポートをもとに技術練習をしておく
	各コマにおける授業予定	ベットメイキングの演習		
第5回 演習形式	授業を通じての到達目標	患者にとって安全で安楽なベッドを作成することができる	テキスト 学習ノート 演習ができる準備(白衣/身だしなみ)	追加修正したレポートをもとに技術練習をしておく
	各コマにおける授業予定	就床患者のシーツ交換の演習(2年生 演習指導参加)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	患者にとって安全で安楽なベッドを作成することができる	テキスト 学習ノート 演習ができる準備(白衣/身だしなみ)	事前に学習した手順書や留意点等をレポートにまとめる
		各コマにおける授業予定	ベットメイキングの演習(臥床時のベットメイキング)		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	患者にとって安全で安楽なベッドを作成することができる	テキスト 学習ノート 演習ができる準備(白衣/身だしなみ)	追加修正したレポートをもとに技術練習をしておく
		各コマにおける授業予定	ベットメイキングの演習(臥床時のベットメイキング)		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	技術試験合格	テキスト 学習ノート 演習ができる準備(白衣/身だしなみ) 配布資料 評価表	追加修正したレポートをもとに技術練習をしておく
		各コマにおける授業予定	技術試験(ベッドメイキング)・技術試験振り返り		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	基本的な体位及び活動の意義が理解できる	テキスト 学習ノート 他	動画の視聴、テキストの関連箇所をノートにまとめる
		各コマにおける授業予定	基本的な体位、支持基底面、活動の意義		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスの意義が理解できる	テキスト 学習ノート 他	動画の視聴、テキストの関連箇所をノートにまとめる
		各コマにおける授業予定	ボディメカニクス、良肢位、関節可動域、人間の自然な動き		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	基本的な体位変換が理解できる	テキスト 学習ノート 他	テキストの関連箇所をノートにまとめる
		各コマにおける授業予定	基本的な体位変換、移送・移動の援助		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	演習:ストレッチャーでの移送技術を演習を通して学ぶことが出来る	テキスト 学習ノート 他	事前に学習した手順書や留意点等をレポートにまとめる
		各コマにおける授業予定	ストレッチャー移乗・移送、体位変換のデモンストレーション		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	演習:体位変換技術及び車椅子の移乗・移送技術を演習を通して学ぶことが出来る	テキスト、演習ができる準備(白衣・身だしなみ)	事前に学習した手順書や留意点等をレポートにまとめる
		各コマにおける授業予定	ボディメカニクスを活用した体位変換、車椅子の移乗・移送		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠のメカニズムと不眠時の看護が理解できる 廃用症候群の予防が理解できる	テキスト、演習ができる準備(白衣・身だしなみ)	テキストの関連箇所をノートにまとめる
		各コマにおける授業予定	睡眠のメカニズム、不眠の看護 廃用症候群、褥瘡の仕組み、評価、予防、体位ドレナージ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境・活動・休息に関する知識を整理し、まとめができる	テキスト 学習ノート 他	環境・活動・休息に関するノートや演習レポート等を振り返って知識を再確認して臨む
		各コマにおける授業予定	まとめ・終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	生活援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	井上 玲子	実務経験と その関連資格	看護師、看護教員として勤務			
《授業科目における学習内容》						
人間にとっての清潔の意義と、その援助方法を習得する。 苦痛緩和・安楽確保の技術を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 看護がみえる①基礎看護技術(メディックメディア) 看護につなげる形態機能学(メヂカルフレンド社)						
《授業外における学習方法》						
1. 人を取り巻く環境は、看護を学ぶ上で全ての基本となるため、予習・復習はもちろん、技術練習は主体的に行うこと。 2. 技術演習には、事前レポートを提出後、演習にのぞむこと。演習後は事後レポートを提出すること。						
《履修に当たっての留意点》						
実習に活用できるように主体的に技術の練習を行う。すべての提出物は、必ず指定された形式で完成させて期日厳守の上提出すること。守れない場合は加点対象とならない。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	清潔・整容の意味と意義、皮膚・粘膜の清潔に対する援助の方法を述べることができる。	テキスト、プリント	授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	清潔・整容の意味と意義、皮膚・粘膜の清潔に対する援助の方法			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	入浴の方法と留意事項、衣生活の意義と衣服の清潔援助の意義を述べることができる。	テキスト、プリント	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。	
		各コマにおける授業予定	入浴の方法と留意事項 衣生活の意義と衣服の清潔援助			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身清拭の方法について述べることができる。	テキスト、プリント	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。	
		各コマにおける授業予定	清潔・衣生活援助の方法(清拭 寝衣交換)			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身清拭、寝衣交換が安全・安楽に実施できる。	テキスト、プリント	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。	
		各コマにおける授業予定	清潔・衣生活援助の方法(清拭 寝衣交換)			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身清拭、寝衣交換が安全・安楽に実施できる。	テキスト、演習必要物品	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。	
		各コマにおける授業予定	清潔・衣生活援助の方法(清拭 寝衣交換)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者の状態に応じた援助の決定と留意点について述べることができる	テキスト、プリント	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。
		各コマにおける授業予定	方法選択の視点、患者状態の判断		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者の状態に応じた援助の決定と留意点について述べることができる	テキスト、プリント	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。
		各コマにおける授業予定	実施上の留意点、プライバシーの保護		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	洗髪が安全・安楽に実施できる。	テキスト、演習必要物品	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。
		各コマにおける授業予定	清潔援助の方法(洗髪)		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	洗髪が安全・安楽に実施できる。	テキスト、演習必要物品	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。
		各コマにおける授業予定	清潔援助の方法(洗髪)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	足浴、手浴が安全・安楽に実施できる。	テキスト、演習必要物品	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。
		各コマにおける授業予定	清潔援助の方法(足浴、手浴)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	足浴、手浴が安全・安楽に実施できる。	テキスト、演習必要物品	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。
		各コマにおける授業予定	清潔援助の方法(足浴、手浴)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護について述べることができる。	テキスト、演習必要物品	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。
		各コマにおける授業予定	苦痛の緩和・安楽へのケア、罨法の種類と身体に及ぼす影響		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	罨法(温/冷)が安全・安楽に実施できる。	テキスト、プリント	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。
		各コマにおける授業予定	罨法(温/冷)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	苦痛緩和や精神的安寧をもたらす看護についてまとめることができる。	テキスト、プリント	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。
		各コマにおける授業予定	リラクゼーション法		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間にとっての清潔の意義とその援助方法、苦痛緩和・安楽確保の技術について述べるができる	テキスト、演習必要物品	前回の講義の復習をする。事前にテキストを読んでくる。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	基礎看護演習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	林 仁美	実務経験と その関連資格	小児循環器病棟で勤務。		

《授業科目における学習内容》

- 問題解決思考型授業による演習を実施する。
1. 既習の知識と技術を応用し、対象に応じた日常生活援助技術を提供できる。
 2. 患者の立場に立ってケアを考えることができる。
 3. 自己の看護技術の振り返りができる。

《成績評価の方法と基準》

技術の終講試験

《使用教材(教科書)及び参考図書》

基礎看護技術 I (医学書院) 基礎看護技術 II (医学書院) 看護がみえる①基礎看護技術(メディックメディア)

《授業外における学習方法》

授業終了時に示す課題を実施し、それに基づいて技術練習に取り組んでください。看護学生としてだけでなく、患者の立場に立って、安全・安楽な援助が提供できるように思考し工夫しながら練習してください。

《履修に当たっての留意点》

レポートや評価の提出期限を厳守してください。各技術について試験を行うため、各自練習に取り組んでください。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者の療養環境について医療安全、患者の安楽を基に述べるができる。	基礎看護技術 I (医学書院) 基礎看護技術 II (医学書院)	既習の環境を整える技術における知識を再確認しておき授業に臨む。
	各コマにおける授業予定	事例を用いて患者の療養環境を考える。		
第2回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の療養環境を整えることができる。	基礎看護技術 I (医学書院) 基礎看護技術 II (医学書院)	授業終了時に提示された課題を実施。環境を整える技術を練習する。
	各コマにおける授業予定	患者の療養環境を整える。技術演習①		
第3回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の療養環境を整えることができる。	基礎看護技術 I (医学書院) 基礎看護技術 II (医学書院)	授業終了時に提示された課題を実施。環境を整える技術を練習する。
	各コマにおける授業予定	患者の療養環境を整える。技術演習②		
第4回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の療養環境を整えることができる。自己の実践を振り返り、課題を明確にすることができる	基礎看護技術 I (医学書院) 基礎看護技術 II (医学書院)	環境を整える技術を練習する。試験終了時に提示された課題を実施。
	各コマにおける授業予定	患者の療養環境を整える。技術演習③		
第5回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の療養環境を整えることができる。自己の実践を振り返り、課題を明確にすることができる。	基礎看護技術 I (医学書院) 基礎看護技術 II (医学書院)	環境を整える技術を練習する。試験終了時に提示された課題を実施。
	各コマにおける授業予定	患者の療養環境を整える。①技術の終講試験。②実施に対する振り返りレポートの記載。③患者役の実施。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者の清潔ケアについて患者の安全・安楽・自立・尊厳を基に述べることができ実施できる。	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)	既習の清潔ケア技術における知識を再確認しておき授業に臨む。
		各コマにおける授業予定	清潔のケア 技術演習のオリエンテーション、技術演習①		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の安全・安楽・自立・尊厳を考えた清潔ケア技術を実施できる。	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)	授業終了時に提示された課題を実施。事例に基づき清潔ケア技術を練習する。
		各コマにおける授業予定	清潔のケア 技術演習②		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の安全・安楽・自立・尊厳を考えた清潔ケア技術を実施できる。自己の実践を振り返り、課題を明確にすることができる。	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)	事例に基づき清潔ケア技術を練習する。試験終了時に提示された課題を実施。
		各コマにおける授業予定	清潔のケア ①技術の終講試験、実施に対する振り返りレポートの記載。②患者役の実施。③脈拍測定、血圧測定の練習		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の安全・安楽・自立・尊厳を考えた清潔ケア技術を実施できる。自己の実践を振り返り、課題を明確にすることができる。	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)	事例に基づき清潔ケア技術を練習する。試験終了時に提示された課題を実施。
		各コマにおける授業予定	清潔のケア ①技術の終講試験、実施に対する振り返りレポートの記載。②患者役の実施。③脈拍測定、血圧測定の練習		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の安全・安楽・自立・尊厳を考えた清潔ケア技術を実施できる。自己の実践を振り返り、課題を明確にすることができる。	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)	事例に基づき清潔ケア技術を練習する。試験終了時に提示された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	清潔のケア ①技術の終講試験、実施に対する振り返りレポートの記載。②患者役の実施。③脈拍測定、血圧測定の練習		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者のバイタルサインについて患者の安全・安楽を基に述べることができ、実施できる。	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)	既習のバイタルサイン技術における知識を再確認しておき授業に臨む。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン 技術演習のオリエンテーション、技術演習①		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の安全・安楽を考えたバイタルサイン技術を実施できる。	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)	授業終了時に提示された課題を実施。バイタルサイン技術を練習する。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン 技術演習②		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の安全・安楽を考えたバイタルサイン技術を実施できる。	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)	授業終了時に提示された課題を実施。バイタルサイン技術を練習する。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン 技術演習③		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の安全・安楽を考えたバイタルサイン技術を実施できる。自己の実践を振り返り、課題を明確にすることができる。	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)	バイタルサイン技術を練習する。試験終了時に提示された課題を実施。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン 技術演習④		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例に基づき、患者の安全・安楽を考えたバイタルサイン技術を実施できる。自己の実践を振り返り、課題を明確にすることができる。	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)	バイタルサイン技術を練習する。試験終了時に提示された課題を実施。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン ①技術の終講試験。②実施に対する振り返りレポートの記載。 ③患者役の実施。		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	キャリア形成論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	三井 佐代子/安東 弥美	実務経験と その関連資格	三井:看護部長・看護行政近畿地方医務局、近畿厚生局等で、看護行政職 安東:大学病院にて看護師、訪問看護、介護支援専門員			
《授業科目における学習内容》						
本校の建学の理念である「人間性」「実学性」をもとに、学生自身が自分の人生を設計し、自分の人生設計を立てて積極的に生きていくための基盤となる授業である。自分のビジョンとゴールをしっかり立てて目標達成していくために、様々な活動、思考を通して学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
三井:終講試験(40%) 安東:レポート(60%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布プリント、配布冊子						
《授業外における学習方法》						
授業で経験したことから自身の将来像を考え、文章化する						
《履修に当たっての留意点》						
学生自身の今までの人生を大切にし、これからの職業人としての人生を積極的に生きるための授業です。様々な体験を通じて、枠にとらわれず自由に思考してみましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	キャリアとキャリア形成について理解し、自分史を振り返る。	配布資料		自分のこれまでのキャリアを振り返ってみる。
		各コマにおける授業予定	①キャリアとは ②キャリア形成			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護職としてのキャリアデザインについて知る	配布資料		看護師のキャリア発達、看護師として活躍できる場を調べておく。
		各コマにおける授業予定	①技能習得段階 キャリアラダー ②看護師としてのキャリアデザイン			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護専門職として成長するために、自身の傾向を知りマネジメントできる。	配布資料		自己が専門職業人として成長するために自己の傾向を考える。
		各コマにおける授業予定	①タイムマネジメント ②ストレスマネジメント			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	保健医療福祉分野における社会のニーズと労働環境についての考えを述べることができる	就職フェア冊子		就職フェア参加
		各コマにおける授業予定	就職フェアに参加し、求められる看護職像や労働環境について知る			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	がん患者の思いや死生観を知り、看護師としての在り方について考えを述べることができる	レポート		「がん患者の」講演
		各コマにおける授業予定	①「がん患者の会」講演のを聴講する ②質疑応答			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 看護職としてのキャリア形成における研究の意義について述べる ことができる	研究ノート、抄録集	卒業研究発表会聴講
	各コマにおける授業予定	研究卒業研究発表で、研究発表の聴講および質疑応答に参加		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標 看護職としてのキャリア形成と継続学習の必要性について述べる ことができる	配布資料	マネジメント学会聴講
	各コマにおける授業予定	マネジメント学会参加し、発表の聴講および質疑応答に参加		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標 看護職としての自身のキャリアデザインについて文章にまとめる ことができる	配布資料、プリント	これまでの学習を踏まえて自分のキャリアデザインをまとめておく
	各コマにおける授業予定	授業を通して考えた自分のキャリアデザインについてまとめる。 終講試験(50分)		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学Ⅶ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	土出 愛子	実務経験と その関連資格	看護国家試験対策 講師 看護師			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の人体についての知識の基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 解剖生理学Ⅶでは、血液・造血器、免疫について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
講義終了時の終講試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 早わかり生理学ハンドブック (ナツメ社)						
《授業外における学習方法》						
予習復習を毎回丁寧に行う。暗記のみでなく、解剖図を記入し、そこに機能を記入してまとめていく。暗記し理解する。						
《履修に当たっての留意点》						
各部位や器官の名称については確実に覚えること 機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液の組成と機能、赤血球について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第3章 血液の組成と機能、赤血球			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	白血球、血小板について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第3章 白血球、血小板			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	血漿タンパク質と血液凝固と線維素溶解について説明できる	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第3章 血漿タンパク質と血液凝固と線維素溶解			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液型と輸血について説明できる。	テキスト、プリント	テキストを事前に読む。 友達同士で問題を出し合いながら学習する。	
		各コマにおける授業予定	第3章 血液型と輸血			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	異物の侵入や増殖を防ぐ生体防御のしくみを説明できる。自然免疫について説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時限あたり 予習:45分、復習:45分	
		各コマにおける授業予定	第9章 生体の防御機構について学ぶ① 皮膚の構造と機能について学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異的免疫機構と非特異的免疫機構について説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時間あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第9章 生体の防御機構について学ぶ②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	アレルギーについて分類し、関与する細胞および反応機構を説明できる。	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時間あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	第9章 免疫異常について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液・造血器、免疫についてまとめることができる	PC、プロジェクター	自己学習(準備学習)に必要な時間 1時間あたり 予習:45分、復習:45分
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態治療学IV		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年生教室
担 当 教 員	樋口 巧	実務経験と その関連資格	国試対策授業 講師 看護師			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。 病態治療学IVでは消化・吸収機能障害の病態と検査、治療について学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
病態生理学(医学書院) 消化器 (医学書院)						
《授業外における学習方法》						
解剖図を描き、その病態を理解する。 正常な臓器の機能の、どこがどのように障害される病気なのかを理解できるように学習する。その上で、症状、検査、治療の理解へと進むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	腸疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習	
		各コマにおける授業予定	消化吸収機能障害 腸の疾患1			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	腸疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	消化吸収機能障害 腸の疾患2			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	胃・十二指腸疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	消化吸収機能障害 胃・十二指腸の疾患			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	胃がんの病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	消化吸収機能障害 胃がん			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	肝臓疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	消化吸収機能障害 肝臓の疾患			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	胆嚢、膵臓疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	消化吸収機能障害 胆嚢、膵臓の疾患		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	食道疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	消化吸収機能障害 食道の疾患		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化・吸収機能障害の病態と検査、治療をまとめることができる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	基本技術論Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	安東 弥美/細山田 啓志/昼神順美子	実務経験とその関連資格	安東:看護師 大学附属病院(外科病棟)での勤務経験、訪問看護ステーションでケアマネ 細山田:看護師 循環器内科・脳血管集中治療室勤務 昼神:助産師		

《授業科目における学習内容》

共通の基本技術であり、看護を実践するためのバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントなどの観察・測定技術、記録、報告について学ぶ。
また、看護を実践するための思考過程であるリフレクションと看護過程展開技術の基礎を習得する。

《成績評価の方法と基準》

安東:終講試験(30%)
細山田:終講試験(60%) 昼神:終講試験(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

基礎看護技術Ⅰ(医学書院)
はじめてのフィジカルアセスメント(メヂカルフレンド社)
看護過程に沿った対症看護(学研メディカル秀潤社)

《授業外における学習方法》

テキストを熟読し、看護技術はイメージができるよう、動画を視聴すること。
基礎Ⅱ実習でも活用できるよう、学習をノートにまとめること。技術向上のため、技術練習を行うこと。
自身の経験を文章で他者にわかるように表現できるよう、授業までに考えを文章化する練習をしておく事。(日記をつけるなど)

《履修に当たっての留意点》

この科目は、看護師として日々活用する技術を修得するためのものです。
予習復習を必ず行う。提出物は期限厳守。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	バイタルサインの意義について理解し述べるができる	PC、プロジェクター テキスト	範囲のテキストを事前に読む
	各コマにおける授業予定	バイタルサインとは バイタルサインとホメオスタシス		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	体温、脈拍、呼吸血圧の正常・異常・意識レベルについて述べるができる	PC、プロジェクター テキスト	範囲のテキストを事前に読む
	各コマにおける授業予定	バイタルサインのアセスメント(体温、脈拍、呼吸、血圧)正常、異常・意識レベル		
第3回 演習形式	授業を通じての到達目標	バイタルサインの一連の流れを実践することができる	血圧計、聴診器、秒針付時計	技術手順や留意点をノートにまとめる
	各コマにおける授業予定	バイタルサイン測定の演習		
第4回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	バイタルサインの一連の流れを実践することができる	血圧計、聴診器、秒針付時計	技術手順や留意点をノートにまとめる
	各コマにおける授業予定	バイタルサイン測定の演習		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	バイタルサインの技術・問診を実施することができる	血圧計、聴診器、秒針付時計	バイタル動画の視聴
	各コマにおける授業予定	バイタルサイン・問診の演習(2年生コラボ授業)		

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 一般状態の観察を述べることができる 呼吸音の聴診が説明できる	PC、プロジェクター テキスト	技術手順や留意点をノートにまとめる
	各コマにおける授業予定	フジカルアセスメントとは 一般状態の観察 フジカルアセスメント（触診、打診、聴診方法）呼吸音の聴診		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標 心音、腹部の聴診が説明できる	PC、プロジェクター テキスト	範囲のを事前に読む
	各コマにおける授業予定	フジカルアセスメント 心音、腹部の聴診		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 呼吸音と心音、腹部の聴診の実際ができる	模型、聴診器	呼吸音と心音、腹部の聴診の動画を視聴 技術手順や留意点をノートにまとめる
	各コマにおける授業予定	フジカル演習（呼吸音、心音、腹部の聴診）		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標 バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧)の測定が正確に実施できる。また必要な問診を行い、観察した内容を判断し報告することができる	血圧計、聴診器、秒針付時計	事例の事前学習を行い、課題プリントを行うこと
	各コマにおける授業予定	事例演習（事例にそってインタビュー、バイタル、フジカル、記録、報告する）		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧)の測定が正確に実施できる。また必要な問診を行い、観察した内容を判断し報告することができる	血圧計、聴診器、秒針付時計	事例の事前学習を行い、課題プリントを行うこと
	各コマにおける授業予定	事例演習（事例にそってインタビュー、バイタル、フジカル、記録、報告する）		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 看護過程とリフレクションを比較し、相違点をまとめられる。	テキスト 配布資料	テキストを読み、わからない単語は調べる。
	各コマにおける授業予定	看護過程とは何か。リフレクションとは何か。		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 看護過程の各ステップの意味を他者に説明できる。	教科書 配布資料	テキストを読み大切な文にマーカーしておく。わからない単語は調べる。
	各コマにおける授業予定	看護過程の各ステップの意味を理解しよう。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 事例Aさん情報で、看護に必要な情報は何か分かる。	テキスト 配布資料	自宅学習課題を行う。
	各コマにおける授業予定	事例Aさんの必要な看護を考える。①		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標 事例Aさんの情報をアセスメントし、課題と目標が言える。 目標達成のための計画が立案できる。	テキスト プロジェクター 配布資料	自宅学習課題を行う。
	各コマにおける授業予定	事例Aさんの必要な看護を考える。②		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 看護実践後の記録・評価・修正がなぜ必要かが説明できる。	テキスト 配布資料	自宅学習課題を行う。
	各コマにおける授業予定	看護実践後の記録・評価・修正の必要性 終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	生活援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	中村 晶 / 昼神 順美子	実務経験と その関連資格	中村:看護師 昼神:看護師、助産師			
《授業科目における学習内容》 身体の機能が正常に維持できるための栄養・代謝及び排泄とその援助技術を実施し学習する。食事・栄養では、人間にとっての食事、栄養とは何かを考える。人間にとっての食事の意味、人間らしく食事をするためにはどのようにアセスメントをし援助をしていく必要があるのかを考え、学ぶ。羞恥心を伴う援助でもある排泄では、排泄のメカニズム、アセスメントの視点、援助の基本、手技獲得に向けて講義、演習を通して理解し説明できることを目標に取り組む。						
《成績評価の方法と基準》 中村:終講試験等(50%) 昼神:終講試験等(50%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 基礎看護Ⅱ(医学書院)、看護がみえる①基礎看護技術(メディックメディア)、看護につなげる形態機能学(メディカルフレンド社)、解剖生理学(医学書院) 他 随時紹介します						
《授業外における学習方法》 食事介助、口腔ケア、陰部洗浄、排泄介助についての演習を行う。演習に向けては、指定された形式で、手技、留意点についてレポートを提出し、演習後は振り返りを提出する事。形式に沿っていなかったり、期日を守れないものは減点とする。						
《履修に当たっての留意点》 自身の日常生活を振り返りながら、健康障害のある人の日常生活行動の援助が考えられるように学ぶこと。専門分野と関連させ、援助の科学的根拠を考え理解し、説明できるように予習復習、グループワーク等の準備をしっかりと行って授業に臨むこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間にとっての食事の意義について自分の言葉で表現できる。	テキスト	事前のレポート課題を提出して授業に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	人間にとっての食事の意義(身体的、精神的、社会的側面から)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事援助の基礎知識について理解し、自分言葉で表現できる。	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝える教科書の範囲を予習して授業に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	栄養状態、水分・電解質のアセスメント			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事援助の基礎知識について理解し、自分言葉で表現できる。	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝える教科書の範囲を予習して授業に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	食欲、摂食・嚥下能力のアセスメント			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	①医療施設で提供される食事の種類と形態について理解し説明できる②食事介助においての注意点を理解し説明できる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝える教科書の範囲を予習して授業に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	摂取行動、食生活の変更を必要とする患者のアセスメント			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	食事摂取の介助について理解し、自分の言葉で説明できる	テキスト	通常予習・復習と、グループでの話し合いの準備をして授業に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	安全・安楽・自立・尊厳を踏まえた食事摂取の基礎知識、実際の方法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者の食事介助、口腔ケアの一連の流れを実施できる	テキスト	演習に向けての手順書を完成して授業に臨み、終了後は振り返りを行うこと
		各コマにおける授業予定	事例患者をもとに、食事介助・口腔ケアの演習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	非経口的栄養摂取の援助について理解し、説明ができる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝える教科書の範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	経管栄養法、中心静脈栄養法について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間にとっての排泄の意義について自分の言葉で表現できる	テキスト	事前のレポート課題を提出して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	自然排尿及び排便のメカニズム、排尿排便のアセスメントについて		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自然排尿及び排便の介助の実際について自分の言葉で表現できる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝える教科書の範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	トイレ、床上排泄における援助の基礎知識、援助の実際		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	自然排尿及び排便の介助の実際、ストーマケアの基礎知識について自分の言葉で表現できる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝える教科書の範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	オムツ交換による排泄援助、ストーマケアの基礎知識、援助の実際		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	床上排泄の介助、オムツ交換の援助を経験することができる	テキスト	通常の前予習・復習と、グループでの話し合いの準備をして授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	安全、安楽、自立、尊厳を踏まえた床上排泄、オムツ交換の演習		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	排便を促す援助について理解し自分の言葉で説明できる	テキスト	演習に向けての手順書を完成して授業に臨み、終了後は振り返りを行うこと
		各コマにおける授業予定	排便を促す援助、浣腸、摘便の基礎知識		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	グリセリン浣腸、浣腸後の陰部洗浄を経験することができる	テキスト	演習に向けての手順書を完成して授業に臨み、終了後は振り返りを行うこと
		各コマにおける授業予定	安全、安楽、自立、尊厳を踏まえたグリセリン浣腸、陰部洗浄の演習		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	オムツを使用しての陰部洗浄を経験することができる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝える教科書の範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	安全、安楽、自立、尊厳を踏まえたオムツを使用しての陰部洗浄の演習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事・排泄援助について学びを述べるができる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝える教科書の範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床判断演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	杉本 千恵	実務経験と その関連資格	看護師 外科・内科病棟勤務			
《授業科目における学習内容》						
臨床でよく出会う判断について、基礎看護で学んだ知識・技術を統合し事例を用いて学習する科目である。						
《成績評価の方法と基準》						
ルーブリック評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) はじめてのフィジカルアセスメント(メディカルフレンド社) 看護がみえる①基礎看護技術(メディックメディア) 看護につなげる形態機能学(メディカルフレンド社)						
《授業外における学習方法》						
授業で示す課題を実施し、事例について考えを深めること						
《履修に当たっての留意点》						
レポートや、課題などの提出期限を厳守してください。事例をもとに考えを深め、必要な学習を積極的に行ってください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者の気づく視点を述べることができる。	ナーシングチャンネル		実習で見たことを思い起こしておく
		各コマにおける授業予定	事例(DVD)を用いて患者の様子を観察し、気づく視点を考える			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例を用いて、患者の観察する視点を述べることができる	テキスト		事例をもとに示された課題を実施
		各コマにおける授業予定	事例を用いて、患者の観察する視点を深める			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例を用いて、患者のアセスメントを述べることができる	テキスト		事例をもとに示された課題を実施
		各コマにおける授業予定	事例を用いて、患者のアセスメントを記載する			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例を用いて、患者のアセスメントを述べることができる	テキスト		事例をもとに示された課題を実施
		各コマにおける授業予定	事例を用いて、患者のアセスメントを記載する			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループでの実践を振り返り、課題を明確にすることができる。	テキスト		事例をもとに示された課題を実施
		各コマにおける授業予定	事例を用いて、グループでシミュレーションを行い、デブリーフィングを実施する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	グループでの実践を振り返り、課題を明確にすることができる。	テキスト	事例をもとに示された課題を実施
		各コマにおける授業予定	事例を用いて、グループでシミュレーションを行い、デブリーフィングを実施する		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	臨床判断での学びをグループでまとめることができる	テキスト	事例をもとに示された課題を実施
		各コマにおける授業予定	臨床判断での学びをリフレクションし、グループでまとめる		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	臨床判断での学びをグループで発表し、他者の意見を聞くことができる。また、課題を明確にすることができる。	テキスト	事例をもとに示された課題を実施
		各コマにおける授業予定	臨床判断での学びをグループで発表する		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	在宅看護概論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年 教室
担当教員	井上 奈美江	実務経験と その関連資格	病院勤務 訪問看護ステーション勤務 看護師免許 介護支援専門員免許			
《授業科目における学習内容》 在宅看護概論は、地域で生活する全ての人々の健康面への支援を統合的に理解することを目指す。 在宅看護の基本理念やその変遷、医療・福祉の連携、地域包括ケアシステムの必要性や意義を学ぶとともに、 その家族への支援も理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》 最終試験にて評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 地域療養を支えるケア /メディカ出版 在宅療養を支える技術 /メディカ出版						
《授業外における学習方法》 グループワークを進めるにあたり、自分で興味を持った事例等について調べておく						
《履修に当たっての留意点》 生活の場での支援であることを具体的にイメージすることが重要						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	社会背景と地域包括ケアシステムについて説明できる	教科書 プリント DVD	訪問看護師の仕事につ いて自分なりに考える	
		各コマに おける 授業予定	社会背景、人口構造の変化、地域包括ケアシステム			
第2回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	訪問看護の成り立ちを述べるができる	教科書 プリント	興味をもった歴史上の 事柄に対して調べ復習 する	
		各コマに おける 授業予定	訪問看護の歴史と現状			
第3回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	社会保障制度、社会資源の活用について理解できる	教科書 プリント	訪問看護師に必要とさ れる能力について考え る	
		各コマに おける 授業予定	地域療養を支える社会保障制度、社会資源			
第4回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	障がい者、難病、こどもの地域療養を支える社会保障制度と社 会資源が説明できる	教科書 プリント	在宅に関する法律的な 用語を自分なりに整理 する	
		各コマに おける 授業予定	障がい者、難病患者、こどもの在宅療養を支える社会保障制度			
第5回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	地域包括システムにおける多職種連携の重要ポイントがわかる	教科書 プリント	社会資源を調べ、まとめ る	
		各コマに おける 授業予定	多職種連携、医療機関における入院時の連携、継続看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	訪問看護を展開するための基本理念について、訪問看護師の役割・機能について述べるができる	教科書 プリント	事例の検討
		各コマにおける授業予定	訪問看護師の理念や、訪問看護師の役割、訪問看護ステーションについて		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	家族看護について自分の意見を述べる事が出来る	DVD	虐待の事例を調べる
		各コマにおける授業予定	家族看護、家族の定義、家族の役割・機能について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅療養の場で起こりえる事故の予防とリスク管理について	プリント GW	訪問看護師に必要とされるコミュニケーション
		各コマにおける授業予定	在宅看護における安全管理、感染管理		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	在宅援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	井上 奈美江60% 平山 司樹40%	実務経験と その関連資格	病院勤務 訪問看護ステーション勤務 看護師免許 介護支援専門員免許			
《授業科目における学習内容》						
社会資源の実際を学び、在宅環境における援助について理解を深める。また、エンド・オブ・ライフケアについて学び、学生自身の価値観や看護観を深める。さらに、在宅における緊急事対応やマナーについて、具体的事例を用いて学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
井上:終講試験60% 平山:終講試験40%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
地域療養を支えるケア /メディカ出版 在宅療養を支える技術 /メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
厚生労働省のホームページを閲覧すること						
《履修に当たっての留意点》						
社会の在宅ケアへの関心や看護師に対する期待は大きくなっている。制度と社会資源は複雑であるが理解していなければならぬ。また、エンド・オブ・ライフケアについて真剣に受講し自己を振りかえり学びを深めること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	療養生活を支える社会資源や自立した療養生活を営む住環境を考えることができる	テキスト 資料	厚生労働省のHP閲覧 ニュース・新聞など	
		各コマにおける授業予定	社会資源や、療養者がその居宅において自立した日常生活を営むことができる住環境について 住宅改修			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	療養者の日常生活を快適にすることや機能訓練のための用具について説明できる	テキスト 資料	厚生労働省のHP閲覧 ニュース・新聞など	
		各コマにおける授業予定	住宅改修や福祉用具につおて			
第3回	講義 形式	授業を通じての到達目標	エンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割と連携について	テキスト 資料	厚生労働省のHP閲覧 ニュース・新聞など	
		各コマにおける授業予定	エンド・オブ・ライフケア、グリーフケア			
第4回	講義 形式	授業を通じての到達目標	エンド・オブ・ライフケアにおける看護	テキスト 資料	厚生労働省のHP閲覧 ニュース・新聞など	
		各コマにおける授業予定	痛み・呼吸・食事・清潔等に関する看護とその対応			
第5回	講義 形式	授業を通じての到達目標	エンド・オブ・ライフケアにおける家族へのケア	資料 DVD	厚生労働省のHP閲覧 ニュース・新聞など	
		各コマにおける授業予定	家族へのケア			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	訪問看護のマナーがわかり、緊急時の対応を述べることができる	資料 テキスト	厚生労働省のHP閲覧 ニュース・新聞など
		各コマにおける授業予定	訪問看護のマナー、緊急時対応(グループワーク)		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	訪問看護のマナーがわかり、緊急時の対応を述べることができる	資料 テキスト	厚生労働省のHP閲覧 ニュース・新聞など
		各コマにおける授業予定	訪問看護のマナー、緊急時対応(演習発表)		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	学習を振り返ることができる		
		各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	成人看護学概論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次	学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	井上玲子／高見清美	実務経験とその関連資格	井上:看護師、専門学校にて看護教育に携わる 高見:看護師・講師		

《授業科目における学習内容》

看護学概論で学んだ看護の対象と関連させて、成人期の対象の見方や考え方を理解する。成人看護学の理念からのライフサイクルにおける成人期の位置づけを理解し、成人をとりまく生活環境・社会生活・医療環境を踏まえて成人看護の役割を理解する。

《成績評価の方法と基準》

高見(30%):終講試験
井上玲(70%):終講試験

《使用教材(教科書)及び参考図書》

系統看護学講座(専門Ⅱ)成人看護学総論(医学書院)

《授業外における学習方法》

現代医療の現状について関心を持ち、教科書を中心に計画的に学習に取り組むこと

《履修に当たっての留意点》

事前学習・復習をした上で、主体的に参加すること

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	成人期の発達段階と発達課題の特徴がまとめられる。	テキスト、プリント	授業内容に関連した箇所を読み、事前学習を行い授業に臨むこと。
	各コマにおける授業予定	成人看護の対象(発達課題と特徴)		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	成人期にある人の特徴が述べられる。	テキスト、プリント	授業内容に関連した箇所を読み、事前・事後学習を行い授業に臨むこと。
	各コマにおける授業予定	成人看護の対象(成人各期の特徴)		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	成人期にある人々の3側面の特徴が述べられる。	テキスト、プリント	授業内容に関連した箇所を読み、事前・事後学習を行い授業に臨むこと。
	各コマにおける授業予定	成人看護の対象(身体的・精神的・社会的特徴と健康問題)		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	成人期にある人々の健康課題が述べられる。	テキスト、プリント	授業内容に関連した箇所を読み、事前・事後学習を行い授業に臨むこと。
	各コマにおける授業予定	成人看護の対象(身体的・精神的・社会的特徴と健康問題)		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	成人期にある人々の健康を守るシステムについて説明できる。	テキスト、プリント	授業内容に関連した箇所を読み、事前・事後学習を行い授業に臨むこと。
	各コマにおける授業予定	成人保健の動向 (生と死の動向・国民経済の動向・人口構造・受療状況)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活習慣と職業が健康に及ぼす具体例が述べられる。	テキスト、プリント	授業内容に関連した箇所を読み、事前・事後学習を行い授業に臨むこと。
		各コマにおける授業予定	成人期の健康障害と関連要因(生活習慣病・職業病)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人期の健康障害にストレス・コーピングがどのように影響しているかが説明できる。	テキスト、プリント	授業内容に関連した箇所を読み、事前・事後学習を行い授業に臨むこと。
		各コマにおける授業予定	成人期の健康障害と関連要因(ストレス・コーピング)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人期にある人の健康段階別の看護について意見交換できる。	テキスト、プリント	授業内容に関連した箇所を読み、事前・事後学習を行い授業に臨むこと。
		各コマにおける授業予定	成人期にある人の健康段階別の看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の学習者へのアプローチ方法がわかる	テキスト、プリント	学習者である患者への看護技術
		各コマにおける授業予定	成人の健康生活を促すための看護技術(エンパワメントエデュケーション、アドヒアランス)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	危機理論、健康信念モデルが説明できる	テキスト、プリント	アギュララとメズイック、フィンクの危機介入、ローゼンストックとベッカーの健康信念モデル
		各コマにおける授業予定	有用な理論(危機理論・健康信念モデル)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	急激な健康破綻をきたした人の特徴と必要な看護が言える	テキスト、プリント	健康の急激な破綻、急激な健康破綻をきたした人の特徴と看護
		各コマにおける授業予定	健康生活の急激な破綻からの回復を促す看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	セルフマネジメント支援についてが説明できる	テキスト、プリント	病みの軌跡、セルフマネジメントの支援
		各コマにおける授業予定	ライフスタイルの再編成を促す看護・急性増悪の予防		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害のある人とその生活を支援する看護について説明できる。	テキスト、プリント	障害がある人の生活とリハビリテーション、障害のある人とその生活を支援する看護
		各コマにおける授業予定	障害を持ちながらの生活とリハビリテーション		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期医療の現状について理解し、看護師の役割について説明ができる。	テキスト、プリント	終末期医療の現状、終末期医療における概念、人生の最期の時を支える看護
		各コマにおける授業予定	人生の最期の時を支える看護、その人らしさを支える看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会復帰に向けた看護についてまとめることができる。	テキスト、プリント	退院支援とは何か、退院支援が必要とされる理由、退院支援の具体的方法
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	安東 弥美 森本 ユカリ	実務経験と その関連資格	安東:医科大学附属病院、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター 森本:看護師として病棟勤務			
《授業科目における学習内容》						
ライフサイクルにおける老年期の特徴を知ることができる。高齢者のソーシャルサポートシステムについて知ることができる						
《成績評価の方法と基準》						
安東:終講試験50% 森本:終講試験40%・レポート課題10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
老年看護学① 高齢者の健康と障害(メディカ出版)						
《授業外における学習方法》						
授業終了時に提示する内容について、課題を実施または予習しておくこと						
《履修に当たっての留意点》						
既習の知識(解剖生理学・病態治療学等)と照らし合わせながら学習する						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年期の発達課題について学び、その特徴を理解し説明できるようになる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施し、次回の授業に持参すること	
		各コマにおける授業予定	①老年看護を学ぶ必要性 ②老年期の発達課題			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者が生きてきた時代背景を理解し、高齢者の価値観や思いを考察し、まとめることができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	①高齢者の生きてきた時代背景 ②老年期におけるQOL、高齢者の心理			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者体験により、高齢者の日常生活で起こりうる危険や安全に暮らすための支援を考え、まとめることができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	①高齢者体験 ②高齢者の日常生活における危険と必要な支援			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢に伴う変化の特徴について説明することができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	①生理的老化と病的老化 ②加齢に伴う身体的・心理的側面の変化の特徴			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢による身体の変化とアセスメント・説明することができ、看護へつなぐことができる	高齢者の健康と障害 P・C	課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	①構造と機能の変化 ②アセスメント法 ③看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢による身体の変化とアセスメント・説明することができ、看護へつなぐことができる	高齢者の健康と障害 P・C	課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①構造と機能の変化 ②アセスメント法 ③看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢に感覚器・運動器の変化について理解し、必要な支援について述べるができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①感覚器の加齢変化と支援 ②運動器の加齢変化と支援 アセスメントの事例をだしながら		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	日本における高齢化、家族形態の変化、高齢者の健康状態や暮らしの特徴について述べるができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①高齢化の現状 ②家族形態の変化と現状 ③高齢者の健康状態、死亡要因・場所、暮らし		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の権利擁護のための制度の概要について述べるができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①高齢者に対するスティグマ ②成年後見制度 ③日常生活自立支援事業		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本における高齢者医療制度の概要について述べるができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①高齢者にかかわる保健医療福祉制度の変遷 ②高齢者医療確保法		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度の概要について述べるができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①介護保険制度の目的 ②介護保険制度の保険者・被保険者 ③要介護認定のプロセス		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度における給付内容・介護予防事業内容について述べるができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①介護保険制度における要介護認定区分と給付 ②介護予防・日常生活支援総合事業		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	老年看護の目的を理解し、老年看護で用いられる理論の活用方法を述べるができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①老年看護の目的と看護師の役割 ②老年看護に役立つ理論・概念		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者を取り巻く、物理的・社会的資源の現状を理解し、高齢者への影響を述べるができる	高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	高齢者の衣食住を助ける福祉用具の実際を見学し説明を受ける		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ライフサイクルにおける老年期の特徴と、ソーシャルサポートシステムについてまとめ、記述することが出来る	高齢者の健康と障害	授業終了後、課題レポート
		各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	八代 理恵	実務経験と その関連資格	小児病棟勤務(NICUを含む)			
《授業科目における学習内容》						
1. 小児看護の対象である子どもとその家族について理解を深め、小児看護の概念と役割を学ぶ。 2. 小児の成長発達を理解し、各発達段階における特徴について理解する。 3. 小児を取り巻く社会の動向と法制度について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
講義終了時の終講試験及び課題で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
小児看護学概論/小児臨床看護総論						
《授業外における学習方法》						
日常では子どもの存在を意識し、子どもを取り巻く社会環境について理解するために、ニュースなどメディアにも関心を向けましょう。また、育児に関する一般書も参考にしましょう。						
《履修に当たっての留意点》						
授業前には、テキストの該当箇所に通しておくこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児看護の変遷、課題、及び子どもの権利について理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論	テキストの該当頁を読ん でおくこと。	
		各コマにおける授業予定	第1章:小児看護の特徴と理念 (小児看護の変遷、目的、課題)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	子供の成長・発達について理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論	テキストの該当頁を読ん でおくこと。	
		各コマにおける授業予定	第2章:子供の成長・発達 (進み方、影響因子、発達評価の目的と方法)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	新生児・乳児期の特徴とその援助について理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論	テキストの該当頁を読ん でおくこと。	
		各コマにおける授業予定	第3章:新生児・乳児 (各期の身体的特徴と発達及び世話、看護)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児・学童期の特徴とその援助について理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 増論	テキストの該当頁を読ん でおくこと。	
		各コマにおける授業予定	第4章:幼児・学童(各期の特徴と発達および問題)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	思春期・青年期の子供の特徴とその援助について理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論	テキストの該当頁を読ん でおくこと。	
		各コマにおける授業予定	第5章:思春期・青年期の子供(身体的生理、情緒的特徴と問題点、社会生活における問題点及びその援助)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族の特徴及び、アセスメントの意義を理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論	テキストの該当頁を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	6.家族の特徴とアセスメント(現代家族の特徴と子供にとっての家族、家族アセスメントの目的・意味・留意点)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	子供と家族を取り巻く社会について理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論	テキストの該当頁を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	第7章:子供と家族を取り巻く社会 (児童福祉・母子保健の変遷と概要、医療費制度、予防接種、学校保健、特別支援教育)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の成長発達および看護についてまとめることができる。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論	授業を振り返り、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	母性看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	池田 容子	実務経験と その関連資格	専門学校教員、助産師としての勤務経験有			
《授業科目における学習内容》 リプロダクティブヘルスやヘルスプロモーションなど母性看護にかかる概念を学ぶ。女性の生涯における身体的変化と心理・社会的発達について学習し、女性のライフサイクルにおける健康課題・問題を理解する。また、女性とその家族の健康を維持、増進するための制度や施策、看護について学ぶ。生殖補助医療、人工妊娠中絶など母性における生命倫理について学び、自己の考えを深める。						
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシンググラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版						
《授業外における学習方法》 母子保健、生殖医療等に関する情報を、新聞、雑誌などから見聞を広め問題意識をもっておくこと。						
《履修に当たっての留意点》 母子保健、生殖医療等に関する情報を、新聞、雑誌などから見聞を広め問題意識をもっておくこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	母性看護の主要概念が理解できる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習をして講義に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	母親となること、愛着、親子相互作用、家族の発達、家族中心のケア			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	母性看護を実践するための概念が理解できる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	リプロダクティブヘルス/ライツ、ウイメンズヘルス 母性看護におけるヘルスプロモーション、エンパワメント、ウェルネス			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスに関わる概念が理解できる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	セクシュアリティ、セクシュアルヘルス/ライツ、ジェンダー性分化、性意識の発達			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスに関する動向が説明できる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	出生や脂肪に関する統計、家族形成に関する統計、性差医療の発展、母性看護学との関連			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスに関する倫理的・法的・社会的課題がわかる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	母性看護実践における倫理とジレンマ、人工妊娠中絶、出生前診断、生殖補助医療の現況と課題			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	母性看護に関する生命倫理について自分の考えを述べることができる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと
		各コマにおける授業予定	母性看護実践の場における倫理的配慮		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスに関する法と施策、支援が説明できる①	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと
		各コマにおける授業予定	母性をめぐる環境、母子保健に関する法律、女性の就労に関する法律		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスに関する法と施策、支援が説明できる②	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと
		各コマにおける授業予定	子育て支援に関する制度・施策、暴力や虐待に関する法律と支援		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスに関する法と施策、支援が説明できる③	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと
		各コマにおける授業予定	周産期医療システム、グローバル化社会におけるわが国の課題		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	性と生殖にかかわる生理が説明できる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと
		各コマにおける授業予定	生殖期の解剖と機能、第二次性徴、性周期、妊娠のメカニズム、性行動・性反応		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	女性のライフサイクル各期の特徴が説明できる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと
		各コマにおける授業予定	女性のライフサイクル、各ライフステージにおける心理・社会的発達と特徴		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖における健康問題と課題が説明できる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと
		各コマにおける授業予定	月経異常、性感染症、女性生殖器の腫瘍		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢によるホルモンの変化と更年期、老年期の健康問題が説明できる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと
		各コマにおける授業予定	更年期の特徴、更年期女性の健康問題と看護、老年期の特徴、老年期女性の健康問題と看護		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	女性と家族のセルフケアを高める看護が説明できる	テキスト/配布資料/参考文献	講義予定内容について予習/復習をして講義に臨むこと
		各コマにおける授業予定	性教育、健康教育		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	母性看護の概念や、一生涯にわたる女性の健康に関する課題・看護等学んだことから自身の考えをまとめることができる	テキスト/配布資料/参考文献	今までの学習内容やまとめたノート等を振り返っておくこと
		各コマにおける授業予定	まとめ/終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	中村 晶	実務経験と その関連資格	循環器、呼吸器、内分泌病棟で勤務、糖尿病療養指導士 看護師			
《授業科目における学習内容》 今までの基礎看護学で学んだ知識・技術を統合し、実際の臨床でどのように応用するかを学ぶ科目である。 ・一般検査および身体浸襲を伴う検査・処置時の看護の役割を安全・安楽の視点で理解する。 ・医療機器の目的と安全に操作する知識を獲得する。 ・無菌操作の基礎的知識を理解し、導尿の技術をおこなう						
《成績評価の方法と基準》 レポート:15% 終講試験:85%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 臨床看護総論(医学書院)、基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 他 随時紹介します						
《授業外における学習方法》 解剖生理・病態治療学など必要と思われる基礎知識を復習して講義に臨むこと。看護師の知識の無さは患者の生命にかかわる。看護師としての原理・原則に基づいた確実な知識と技術を身につける努力をすること。						
《履修に当たっての留意点》 全ての提出物は、必ず指定された形式で完成させて期日厳守の上提出すること。守れない場合は加対象にはならない						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	無菌操作の原理原則を理解した上で滅菌物の取り扱いができるようになる	テキスト/無菌操作物品/レポート用紙	授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	無菌操作の基礎的知識・無菌物の取り扱いについて			
第2回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	滅菌ガウンと滅菌手袋の装・脱着、鉗子操作ができる	テキスト	事前レポートを期日までに提出し演習に臨むこと。また、演習後には振り返りを行い、期日までに提出すること	
		各コマにおける授業予定	無菌手袋の装着 鉗子操作、个人防护用具の着用方法とはずしかた			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	創傷の治癒過程・及び創傷ケアの原理原則が説明できるようになる	テキスト/模型	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護:創傷の処置と看護			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	褥瘡及び創傷ケアを受ける患者の看護が説明できるようになる	テキスト/模型	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護:褥創ケア			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査における患者の侵襲を考えながら検体の取り扱いの基礎について説明できるようになる	テキスト/模型	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと	
		各コマにおける授業予定	診察/ 検査時の看護 検体の採取、取り扱いについて			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な検査における患者への看護の基本が説明できるようになる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	検査場面における援助の留意点と実際		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を用いて静脈血採血ができるようになる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	検査場面における具体的援助(採血演習)①		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を用いて静脈血採血ができるようになる	演習/採血物品	事前レポートを期日までに提出し演習に臨むこと。また、演習後には振り返りを行い、期日までに提出すること
		各コマにおける授業予定	検査場面における具体的援助(採血演習)②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床で用いられる主な医療機器の原理と実際を理解し説明ができるようになる	演習/採血物品	事前レポートを期日までに提出し演習に臨むこと。また、演習後には振り返りを行い、期日までに提出すること
		各コマにおける授業予定	医療機器の原理と実際(心電図モニター・パルスオキシメータ)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	導尿、尿留置カテーテルについて説明できるようになる	テキスト/当該医療機器	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	排泄に関する処置(一時的・持続的導尿の目的、留意点、実施方法)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	一次的導尿、尿留置カテーテルの一連の流れが体験できる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	排泄に関する処置(導尿)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	一次的導尿、尿留置カテーテルの一連の流れが体験できる	演習/一時的導尿物品	事前レポートを期日までに提出し演習に臨むこと。また、演習後には振り返りを行い、期日までに提出すること
		各コマにおける授業予定	排泄に関する処置(導尿)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体侵襲を伴う検査とその看護の基本が説明できるようになる	演習/一時的導尿物品	事前レポートを期日までに提出し演習に臨むこと。また、演習後には振り返りを行い、期日までに提出すること
		各コマにおける授業予定	身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護:(胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺・腰椎穿刺)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	止血法の原則や基礎的な包帯法の実践が実施できる	テキスト/環軸包帯	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	止血・包帯法		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床援助論 I で学んだことをまとめることができる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	在宅援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	井上 奈美江	実務経験と その関連資格	病院勤務 訪問看護ステーション勤務 看護師免許 介護支援専門員免許			
《授業科目における学習内容》						
在宅療養者の看護過程の展開を学び、生活者である在宅療養者とその家族のアセスメントと社会資源の活用について理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート50% 終講試験50%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア(メディカ出版) ナーシング・グラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術(メディカ出版) 看護と介護の連携ワークブック(つちや出版)						
《授業外における学習方法》						
看護過程の展開のための自己学習として、展開事例の疾患等を調べる						
《履修に当たっての留意点》						
看護過程の展開は、療養者の生活環境、多職種との連携が具体的に記載できるようにしてください						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	在宅療養を支える看護過程とその特徴を説明できる	テキスト 資料	在宅における社会資源 の活用について	
		各コマに おける 授業予定	在宅療養者の看護過程 事例の紹介(パーキンソン)			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	事例に必要な経管栄養法(胃ろう)についてしらべまとめる	テキスト 資料	訪問看護の緊急時につ いて考える	
		各コマに おける 授業予定	在宅における胃ろうを造設した療養者の援助(一部、個人ワー ク)			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	在宅療養者の情報整理ができる。足りない情報がわかる	テキスト 資料	テキストを読んでおく	
		各コマに おける 授業予定	在宅療養における看護過程の展開(情報収集)			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	事例について、看護が24時間・1週間で対象をとらえる必要性 がわかり、アセスメントができる。	テキスト 資料	事例について把握する	
		各コマに おける 授業予定	在宅療養における看護過程の展開(アセスメント)			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	事例について、家族の健康状態が生活に及ぼす影響につい て、アセスメントを深めることができる	テキスト 資料	事例について把握する	
		各コマに おける 授業予定	家族に安全・安楽なケアや管理方法を検討する 在宅療養における看護過程の展開(アセスメント)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例について全体像を捉え、社会サービスとのつながりがわかる	テキスト プリント	事例について把握する
		各コマにおける授業予定	社会資源の活用 在宅療養におけるの看護過程の展開(関連図)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例について、自立を支える看護計画が立案できる	テキスト プリント	看護計画を考える
		各コマにおける授業予定	在宅療養におけるの看護過程の展開(看護計画立案)		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	学習を振り返ることができる		
		各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ レポート提出		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	多職種連携		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	服部あすか／松下 有実子	実務経験とその関連資格	服部:看護師として病棟勤務 松下:精神科病棟で看護師として勤務			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>この授業は、医療職間での連携と医療職(看護)と福祉職との連携で構成される。他学科とのグループワークを経験し、多職種に対する理解を深め、多職種との連携の必要性和チーム医療、ヘルスケアチームについて学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>服部:50%(終講試験30%、レポート20%) 松下:50%(終講試験30%、レポート20%)</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>看護と介護の連携ワークブック</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>多職種についての理解を深めため医療・介護・福祉に関係するニュース等を確認する授業前後のレポートを必ず提出すること。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>連携授業では、ワークブックをもちいて授業を展開する。グループワークでは、積極的に発言し協力して学びを深める</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の専門性について考察し、述べることができる	資料	保健師助産師看護師法について調べておく	
		各コマにおける授業予定	保健師助産師看護師法における看護師の業務・看護理論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療職間での連携の必要性がわかる。また、理学療法士・作業療法士の役割と業務がわかる	資料	理学療法士について 作業療法士について 仕事内容等調べておく	
		各コマにおける授業予定	理学療法士・作業療法士の役割と業務			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士・視能訓練士の役割と業務がわかる	資料	言語聴覚士について 視能訓練士について 仕事内容等を調べておく	
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士・視能訓練士の役割と業務			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護師および他の医療専門職の役割について理解し、表現できる。	資料	看護職の専門性について まとめておく	
		各コマにおける授業予定	多職種学生との事例検討 GW			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、必要な情報を共有することの必要性が理解できる	資料	チーム医療とは 多職種連携の必要性 事例患者の病態・治療・検査・治療・看護について	
		各コマにおける授業予定	多職種学生との事例検討 GW			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例について、対象患者の必要とされる様々な専門職としての支援と連携がわかる	資料	チーム医療とは 多職種連携の必要性 事例患者の病態・治療・検査・治療・看護について
		各コマにおける授業予定	多職種学生との事例検討 GW		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例について、退院後の在宅医療にむけての支援と連携それぞれの専門性を活かした援助を明確にする。	資料	チーム医療とは 多職種連携の必要性 事例患者の病態・治療・検査・治療・看護について
		各コマにおける授業予定	多職種学生との事例検討 GW		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療職(看護)と福祉職等との連携の必要性がわかる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	ゲストティーチャーからの医療職と福祉職の連携の実際		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療職と福祉職の考え方、相違点について説明できる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	介護過程について 倫理要領からみる看護・介護の相違点 看護職と介護職の考え方の傾向について		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療職と福祉職との連携の必要性について説明できる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	社会福祉士の役割について、保育士の役割について		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療職・福祉職の連携グループで良好な関係を築くためのコミュニケーションが取れる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	看護、介護、社会福祉、保育でのチームビルディング(レクリエーション)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークで看護学生として意見を述べ、また、相手を尊重したコミュニケーションが取れる	連携ワークブック プリント	具体的なケアを考える
		各コマにおける授業予定	事例についてのケアを考える GW		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例の情報等を共有することの必要性が理解できる	連携ワークブック プリント	具体的なケアを考える
		各コマにおける授業予定	合同授業で事例についてのケアを考える GW		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護学生として意見を述べ、職種間からの価値基準の違いに気が付くことができる。	連携ワークブック プリント	具体的なケアを考える
		各コマにおける授業予定	事例についてのケアを考え、発表準備 GW		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワーク等で共同したことから考察し、共同するために必要な態度や事柄を述べるができる	発表資料	連携の必要性について 事例内容について
		各コマにおける授業予定	事例発表・評価 レポート提出		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	森本 ユカリ	実務経験と その関連資格	看護師として病棟勤務			
《授業科目における学習内容》						
呼吸機能障害(呼吸器症状・呼吸器疾患)を持つ対象の病態や治療、その影響について学ぶ。また、対象及び家族が健康問題に向き合うための方法について学ぶ。成人期の呼吸機能障害を持つ対象のセルフマネジメント支援について、看護過程の展開を通して学び、退院後の生活を支援する具体的な看護援助について考えていく。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験・レポート 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器(医学書院) 臨床看護総論(医学書院) 看護過程に沿った対症看護 (学研) 各自必要と考える教科書や参考書						
《授業外における学習方法》						
シラバスの準備学習の具体的な内容を参考に学習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
1年次に履修済みの病態治療学Ⅱ(呼吸器)について復習しておくこと。予習・復習を必ず行った上で受講すること。計画的に学習計画を立案し、取り組むこと。提出物は期限を守ること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性期の特徴・ニーズ、慢性期にある患者への看護について述べることができる	テキスト資料		成人看護概論で学習した慢性期の看護について復習しておく
		各コマにおける授業予定	慢性期治療の特徴、経過をとらえる視点、セルフマネジメント能力獲得/向上に向けた支援について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸困難のある患者の看護について述べることができる	テキスト資料		呼吸器症状について病態治療学(呼吸器)について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	呼吸困難の機序、分類(ヒュージョーンズ、MRC)、アセスメントの視点(呼吸のパターン、呼吸の異常、肺炎、気胸、他)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸困難のある患者の看護について述べることができる	テキスト資料		呼吸器症状について病態治療学(呼吸器)について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	アセスメントの視点(酸素化障害、慢性・急性呼吸不全、他)看護目標と看護活動(酸素療法、呼吸法、日常生活管理 他)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	血痰・喀血のある患者の看護について述べることができる	テキスト資料		呼吸器症状について病態治療学(呼吸器)について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	血痰・喀血の機序、アセスメントの視点(身体面、精神面、肺癌、他)看護目標と看護活動(気道確保 他)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸障害のある患者への検査・処置と看護について述べることができる	テキスト資料		呼吸器症状について病態治療学(呼吸器)について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	気管支鏡検査、胸腔ドレナージ、体位ドレナージ、安楽な呼吸への援助			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性閉塞性肺疾患患者の看護について述べるができる	テキスト資料	呼吸器症状について病態治療学(呼吸器)について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	慢性閉塞性肺疾患の病態生理、アセスメントの視点(ガス交換障害に伴う症状、咳嗽・喀痰、スパイロメーター)について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性閉塞性肺疾患患者の看護について述べるができる	テキスト資料	呼吸器症状について病態治療学(呼吸器)について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	アセスメントの視点(慢性呼吸不全、肺性心、日常生活への影響、精神面、社会面への影響)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性閉塞性肺疾患患者の看護について述べるができる	テキスト資料	呼吸器症状について病態治療学(呼吸器)について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	アセスメントについて主要項目の発表、共有		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性閉塞性肺疾患患者の看護について述べるができる	テキスト資料 各自看護過程の展開に必要なと考える参考書	既習の一連の看護過程の展開について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	アセスメントに基づき関連図を作成する。それぞれの情報を関連図上で描き、看護上の問題を明確にする。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性閉塞性肺疾患患者の看護について述べるができる	テキスト資料 各自看護過程の展開に必要なと考える参考書	慢性閉塞性肺疾患の病態、治療について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	アセスメントに基づき関連図を作成する。それぞれの情報を関連図上で描き、看護上の問題を明確にする。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性閉塞性肺疾患患者の看護について述べるができる	テキスト資料 各自看護過程の展開に必要なと考える参考書	慢性閉塞性肺疾患の病態、治療について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	作成した関連図の発表		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	慢性閉塞性肺疾患患者の看護について述べるができる	テキスト資料 各自看護過程の展開に必要なと考える参考書	関連図から看護計画を立案できるように準備しておくこと
		各コマにおける授業予定	関連図から看護上の問題を明確にし、優先順位を決定、看護計画を立案		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	慢性閉塞性肺疾患患者の看護について理解し述べるができる	テキスト資料 各自看護過程の展開に必要なと考える参考書	明確になった看護計画をすべて立案できるように準備しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護計画の立案(主に退院後のセルフマネジメント能力獲得のための支援)、立案した計画(指導案含む)の共有		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	慢性閉塞性肺疾患患者の看護 退院後のセルフマネジメント支援について述べるができる	テキスト資料 各自看護過程の展開に必要なと考える参考書	明確になった看護計画をすべて立案できるように準備しておく
		各コマにおける授業予定	退院後のセルフマネジメント能力獲得のための支援について指導案の実施、評価、修正について		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害をもつ患者の看護において必要な内容をまとめることができる。	テキスト資料 各自看護過程の展開に必要なと考える参考書	呼吸器症状について、病態治療学(呼吸器)について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	まとめと終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	成人援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年生教室
担 当 教 員	細山田 啓志/ 循環器病研究センター講師	実務経験と その関連資格	細山田:循環器内科・脳血管集中治療室勤務 循環器病研究センター講師:循環器病研究センターで看護師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
循環機能障害(循環器症状・循環器疾患)/脳神経機能障害(神経症状・脳神経疾患)を持つ対象の病態や治療、その影響について学ぶ。また、対象及び家族が健康問題に向き合うための方法について学ぶ。成人期の循環・脳神経機能障害を持つ対象がその人らしく過ごせるよう、生活の質の維持・向上に向けての支援を考えていく。						
《成績評価の方法と基準》						
細山田(終講試験50%) 循環器病研究センター講師(終講試験50%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 循環器/脳神経 (医学書院) 臨床看護総論(医学書院) 各自必要と考える教科書や参考書						
《授業外における学習方法》						
シラバスの準備学習の具体的な内容を参考に学習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
1年次に履修済みの病態治療学(循環器/脳神経)について復習しておくこと。予習・復習を必ず行った上で受講すること。計画的に学習計画を立案し、取り組むこと。提出物は期限を守ること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸痛のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	成人看護概論で学習した慢性期の看護について復習しておく	
		各コマにおける授業予定	胸痛の種類、機序、アセスメントの視点(検査:心電図・心臓カテーテル、狭心症、心筋梗塞、治療:カテーテル・手術、他)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸痛のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	看護目標と看護活動(再発作予防、日常生活管理)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	不整脈のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	徐脈・頻脈の機序、アセスメントの視点(症状、検査:心電図、不整脈、他)看護目標と看護活動(薬物療法、非薬物療法:ペースメーカー、日常生活の管理)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	心不全症状(呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、他)のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	心不全症状の機序、アセスメントの視点(心音・フォレスト分類、検査、弁膜疾患、他)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	心不全症状(呼吸困難、浮腫、起坐呼吸他)のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	看護目標と看護活動(食事療法、心負荷軽減の体位、日常生活管理、その人らしく生活することの支援、他)			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 虚血性心疾患患者の看護 事例を通し主要項目のアセスメントができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	事例患者の情報整理、アセスメント(誘因、症状、検査、治療、日常生活管理)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 虚血性心疾患患者の看護 事例を通し関連図作成ができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	関連図(一部)を提示し、情報を関連付ける方法を学びつつ、完成する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 意識・神経障害のある患者の看護について述べる事ができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	意識障害の機序、アセスメントの視点(意識レベルの評価方法、意識障害の日常生活への影響、頭蓋内圧亢進、脳血管疾患、他)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 意識・神経障害のある患者の看護についてのべる事ができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	アセスメントの視点(頭蓋内圧亢進、けいれん発作、脳脊髄液検査、脳室ドレーン、脳血管疾患:脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、他)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 意識・神経障害のある患者の看護についてのべる事ができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	アセスメントの視点(身体面、精神・社会面への影響)、看護目標と看護活動(QOLの維持・向上に向けての支援、再発予防)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 高次機能障害のある患者の看護についてのべる事ができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	高次機能障害の機序、アセスメントの視点(言語障害、空間・記憶・注意障害 他)、看護目標と看護(QOLの維持・向上に向けての支援)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 運動・感覚機能障害のある患者の看護についてのべる事ができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	運動・感覚機能障害の機序、アセスメントの視点(麻痺・排尿・感覚障害)、看護目標と看護活動(日常生活援助、その人らしく生活することの支援他)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 脊髄損傷患者の看護 事例を通し主要項目のアセスメントができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	事例患者の情報整理、アセスメント(運動・感覚・呼吸障害、日常生活、精神面への影響)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 脊髄損傷患者の看護 事例を通し関連図作成ができる	テキスト資料	目標の症状、疾患の病態生理を復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	関連図(一部)を提示し、情報を関連付ける方法を学びつつ、完成する		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 循環機能障害、脳神経機能障害の看護において必要な内容をまとめることができる。	テキスト資料	循環機能障害、脳神経機能障害について病態治療学について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	まとめと終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	成人援助論Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	尾形いずみ/ 細山田啓志	実務経験とその関連資格	尾形:腎・泌尿器・消化器外科病棟で勤務。その後、呼吸器・循環器内科病棟で勤務 細山田:循環器病研究センターにて看護師として勤務		
《授業科目における学習内容》 栄養摂取、消化器機能障害(消化器症状・消化器疾患)/腎・泌尿器障害(腎・泌尿器系症状/腎・泌尿器疾患)を持つ対象の病態や治療、その影響について学ぶ。また、対象及び家族が健康問題に向き合うための方法(家族や重要他者との関係を支える方法)について学ぶ。成人期の消化器機能障害/腎・泌尿器機能障害を持つ対象のセルフマネジメント能力を高める支援(ライフスタイルの再編成)について考えていく。					
《成績評価の方法と基準》 尾形(終講試験50%)、 細山田(終講試験50%)					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 消化器/腎・泌尿器(医学書院) 臨床看護総論(医学書院) 各自必要と考える教科書や参考書					
《授業外における学習方法》 シラバスの準備学習の具体的な内容を参考に学習をする。					
《履修に当たっての留意点》 1年次に履修済みの病態治療学(栄養学/消化器/腎・泌尿器)について復習しておくこと。予習・復習を必ず行った上で受講すること。計画的に学習計画を立案し、取り組むこと。提出物は期限を守ること。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 吐き気・嘔吐のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	成人看護概論で学習した慢性期の看護について復習しておく	
	各コマにおける授業予定	吐き気・嘔吐の機序、アセスメントの視点(脱水、胃潰瘍、イレウス)、看護目標と看護活動			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 吐血・下血のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	消化器機能障害について病態治療学(消化器)について復習しておくこと	
	各コマにおける授業予定	吐血・下血の機序、アセスメントの視点(貧血、潰瘍性大腸炎、胃がん、内視鏡検査・治療 他)、看護目標と看護活動(ライフスタイルの再編成)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 下痢のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	消化器機能障害について病態治療学(消化器)について復習しておくこと	
	各コマにおける授業予定	下痢の機序、アセスメントの視点(ブリストル便形状スケール、クローン病他)看護目標と看護活動			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 黄疸のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	消化器機能障害について病態治療学(消化器)について復習しておくこと	
	各コマにおける授業予定	黄疸の機序、アセスメントの視点(自覚症状、検査データ、内視鏡検査、ERCP、肝胆膵疾患、他)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 黄疸のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	消化器機能障害について病態治療学(消化器)について復習しておくこと	
	各コマにおける授業予定	アセスメントの視点(自覚症状、検査データ、内視鏡検査、ERCP、肝胆膵疾患、他、看護目標と看護活動(ライフスタイルの再編成)			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 大腸癌患者の看護 ストマ造設後の生活管理確立に向けた支援(ライフスタイルの再編成)について述べるができる	テキスト資料	消化器機能障害について病態治療学(消化器)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	情報整理、アセスメントの視点(便秘、腹部膨満、誘因)、看護の方向性の確認		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 大腸癌患者の看護 ストマ造設後の生活管理確立に向けた支援(ライフスタイルの再編成)について述べるができる	テキスト資料	消化器機能障害について病態治療学(消化器)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	造設後の日常生活の管理について(造設後の観察、日常生活の管理)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 尿量の異常のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	消化器機能障害について病態治療学(消化器)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	尿量異常(頻尿・乏尿・無尿他)の種類、アセスメントの視点(正常、観察、尿路結石、尿路感染症、他)、看護活動(日常生活の管理)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 尿の異常のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	腎・泌尿器機能障害について病態治療学(腎・泌尿器)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	尿の異常(比重、浸透圧の異常)の種類、アセスメントの視点(腎機能検査、観察、腎不全、他)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 排尿障害のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	腎・泌尿器機能障害について病態治療学(腎・泌尿器)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	排尿障害の機序、アセスメントの種類(正常、観察、尿閉、残尿前立腺疾患、膀胱腫瘍、他)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 排尿障害のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	腎・泌尿器機能障害について病態治療学(腎・泌尿器)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	アセスメントの種類(前立腺疾患、膀胱腫瘍、ウロストミー、他)、看護目標と看護活動(日常生活の管理)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 浮腫のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	腎・泌尿器機能障害について病態治療学(腎・泌尿器)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	腎疾患による浮腫の機序、アセスメントの視点(ネフローゼ)、看護活動(苦痛の緩和)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 慢性腎不全患者の看護 透析患者の日常生活管理(ライフスタイルの再編成)について理解することができる	テキスト資料	腎・泌尿器機能障害について病態治療学(腎・泌尿器)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	情報整理、アセスメントの視点(症状、誘因、透析治療)、看護の方向性の確認		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 慢性腎不全患者の看護 透析患者の日常生活管理(ライフスタイルの再編成)について理解することができる	テキスト資料	腎・泌尿器機能障害について病態治療学(腎・泌尿器)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	透析導入後の管理について(日常生活管理、ライフスタイルの再編成)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 栄養摂取、消化器機能障害/腎・泌尿器障害をもつ患者の看護において必要な内容をまとめることができる。	テキスト資料	消化器、腎泌尿器機能障害について病態治療学について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	まとめと終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	服部あすか	実務経験と その関連資格	服部:看護師として病院勤務			
《授業科目における学習内容》						
認知症患者に対するアセスメント方法や看護について理解することができる。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験(90%)と、プレゼンテーション資料(10%)の提出状況および内容で合計100点(100%)とします						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
老年看護学① 高齢者の健康と障害(メディカ出版)老年看護の実践②(メディカ出版)						
《授業外における学習方法》						
授業終了時に提示する内容について、課題を実施または予習しておくこと						
《履修に当たっての留意点》						
既習の知識(解剖生理学・病態治療学等)と照らし合わせながら学習する						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知症のメカニズムについて理解することができる	高齢者看護の実践 高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	①認知症の病態と要因②認知症の症状の理解とケア			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知症アセスメント方法および看護について述べるができる	高齢者看護の実践 高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	①認知機能および生活機能のアセスメント(認知症高齢者の日常生活自立度診断基準、MMSE、HDS-R) ②認知症看護の原則			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知症高齢者への看護について述べるができる	高齢者看護の実践 高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	①認知症高齢者の世界を知る(DVD) ②認知症高齢者とのコミュニケーション ③認知症高齢者の環境調整			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知症高齢者と家族へのサポートシステムについて述べることができる	高齢者看護の実践 高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	①ピアサポートとは ②オレンジプランによる認知症地域支援事業 ③認知症サポーター養成講習について			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知症の病態、診断、治療、予防、支援についてのプレゼンテーション内容を考えることができる	高齢者看護の実践 高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	①認知症サポーター養成講習の発表内容、発表資料検討			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	認知症の病態、診断、治療、予防、支援についてのプレゼンテーション資料を作ることができる	高齢者看護の実践 高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①認知症サポーター養成講習の発表内容・資料検討 ②発表資料作成		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	認知症の病態、診断、治療、予防、支援についての効果的なプレゼンテーションを考えることができる	高齢者看護の実践 高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①認知症サポーター養成講習の発表練習 ②発表内容・方法の検討と修正		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	認知症患者の看護についてまとめることができる。	高齢者看護の実践 高齢者の健康と障害	授業終了時に説明する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	まとめ 終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	安東 弥美 高山良子/ 濱田智子	実務経験と その関連資格	安東:医科大学附属病院、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター/高山:看護師/濱田:歯科医師(口腔外科)大学病院にて急性期観血的処置治療や口腔顎顔面領域の診療に従事。			
《授業科目における学習内容》						
<p>老年看護過程:老年期に多い大腿骨頸部骨折(骨粗鬆症)の事例を用いて、ゴードンの枠組みで、看護過程について、看護の進め方、考え方や表現方法を知ることができる</p> <p>※ストレングモデル・コンフォート理論活用</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>高山:終講試験 20% 安東:老年看護過程(レポート等)65%</p> <p>濱田:終講試験 15%</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>安東:高齢者看護の実践(メディカ出版) 濱田:高齢者の健康と障害(メディカ出版)</p> <p>高山:高齢者看護の実践(メディカ出版) 成人看護学 運動器(医学書院)</p>						
《授業外における学習方法》						
各疾患の看護の授業までに疾患の病態生理、検査、治療についてテキストや病態生理学の授業資料や教科書を使用しながら復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
事前学習・復習は必ず行うこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	高齢者に多い骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折のメカニズムと治療について理解し、看護について述べるができる。(高山)		高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
	各コマにおける授業予定	①骨粗鬆症の原因・診断基準 ②骨粗鬆症の治療と看護 ③大腿骨頸部骨折の原因・診断基準 ④大腿骨頸部骨折の看護・脱臼予防の看護				
第2回	授業を通じての到達目標	高齢者の身体的・精神的変化について理解し、生活を支える看護(予防)について述べるができる(高山)		高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
	各コマにおける授業予定	①ロコモティブシンドローム ②サルコペニア ③フレイル				
第3回	授業を通じての到達目標	高齢者の生活機能評価方法を述べるができる(高山)		高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
	各コマにおける授業予定	①カツAD指標 ②パーセルインデックス ③障害高齢者の日常生活自立度 ③機能的自立度評価表(FIM) ④MMT				
第4回	授業を通じての到達目標	運動機能の障害が日常生活に及ぼす影響を知り対象の生活を支える看護・予防について述べるができる。(安東)		高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
	各コマにおける授業予定	大腿骨頸部骨折(骨粗鬆症)の高齢者のアセスメント(ゴードン枠組み) ※ストレングモデル・コンフォート理論活用 アセスメント・問題抽出				
第5回	授業を通じての到達目標	運動機能の障害が日常生活に及ぼす影響を知り対象の生活を支える看護・予防について述べるができる。(安東)		高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
	各コマにおける授業予定	大腿骨頸部骨折(骨粗鬆症)の高齢者のアセスメント(ゴードン枠組み) ※ストレングモデル・コンフォート理論活用 アセスメント・問題抽出				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	運動機能の障害が日常生活に及ぼす影響を知り対象の生活を支える看護・予防について述べる事が出来る。(安東)	高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	大腿骨頸部骨折(骨粗鬆症)の高齢者のアセスメント(ゴードン枠組み) ※ストレングモデル・コンフォート理論活用 アセスメント・問題抽出			
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	運動機能の障害が日常生活に及ぼす影響を知り対象の生活を支える看護・予防について述べる事が出来る。(安東)	高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	大腿骨頸部骨折(骨粗鬆症)の高齢者のアセスメント(ゴードン枠組み) ※ストレングモデル・コンフォート理論活用 アセスメント・問題抽出			
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	運動機能の障害が日常生活に及ぼす影響を知り対象の生活を支える看護・予防について述べる事が出来る。(安東)	高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	大腿骨頸部骨折(骨粗鬆症)の高齢者のアセスメント(ゴードン枠組み) ※ストレングモデル・コンフォート理論活用			
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	運動機能の障害が日常生活に及ぼす影響を知り対象の健康問題について説明できる。(安東)	高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	事例(大腿骨頸部骨折)の高齢患者の全体像を関連図に描く看護課題(問題)の抽出			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動機能の障害が日常生活に及ぼす影響を知り対象の健康問題について説明できる。(安東)	高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	事例(大腿骨頸部骨折)の高齢患者の健康問題に対する目標を設定する			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動機能の障害のある高齢者の看護について述べる事ができる。(安東)	高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	事例(大腿骨頸部骨折)の高齢患者の術前の看護計画立案 ※ストレングモデル・コンフォート理論活用			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動機能の障害のある高齢者に対して、術後合併症を予防するための看護を実施し、振り返ることができる。(安東)	高齢者看護の実践 メディカ出版	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	事例(大腿骨頸部骨折)の高齢患者の看護計画の実施と振り返り ※ストレングモデル・コンフォート理論活用			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚機能低下患者の観察と必要となる看護についてわかる。(濱田)	高齢者看護の実践 メディカ出版	手術・点眼・転倒音叉・補聴器・聴力検査
	各コマにおける授業予定	メニエール氏病・白内障・緑内障/難聴(感音性難聴・伝音性難聴)			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚機能低下患者の観察と必要となる看護についてわかる。(濱田)	高齢者看護の実践 メディカ出版	手術・点眼・転倒音叉・補聴器・聴力検査
	各コマにおける授業予定	メニエール氏病・白内障・緑内障/難聴(感音性難聴・伝音性難聴)			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年期に多い疾患をゴードンの枠組みで、看護過程について、看護の進め方、考え方を理解し、まとめを記述することが出来る。(安東)	高齢者看護の実践 メディカ出版	老年期における健康障害について病態・看護過程・看護について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	林 仁美	実務経験と その関連資格	小児病棟看護師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
子どもにとっては、病院で行われる検査・処置のみならず、日常生活の援助さえも予測ができず心理的危機状態に陥る。各成長発達段階における特徴を理解し、生命の消耗を最小限にしなが、子どもにとっての最善の利益、安全・安楽を守ることができるように、治療・検査・処置に必要な看護技術を学ぶ。そして、事例を通して具体的な援助が考えられるようになる。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験で評価を行う。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 (医学書院)						
《授業外における学習方法》						
日常で見かける子どもを観察しておいてください。小児病棟のテレビ・ドラマなど関心を持って観ておいてください。						
《履修に当たっての留意点》						
小児看護学概論を復習し、小児の成長各期の特徴を予習しておくこと。授業や演習に積極的に取り組んでください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査・処置体験とはどのようなものか、子どもの立場に立って考えることができる。看護者の役割を子どもの権利などから知る。	小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)	小児看護学概論を復習し小児の特徴を理解する。	
	各コマにおける授業予定	1. 子どもにとっての検査・処置体験とは 2. 倫理綱領・児童の権利に関する条約からの看護師の役割 3. プレパレーションやディストラクションの重要性				
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもへのかかわり方の基本を知る。 子どもへのバイタルサイン測定の基本を知り、実施する。	小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読する。	
	各コマにおける授業予定	1. 子どもへのコミュニケーションのとり方 2. 各発達段階によるバイタルサイン測定技術				
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	子どもへの与薬技術について体験を基に学ぶことができる。	小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読する。	
	各コマにおける授業予定	1. 子どもに必要な与薬技術(内服、点耳、点眼、採尿、浣腸) 2. 子どもへの注射				
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	輸液管理を受ける子どもとその家族への対応について実践することができる。	小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読する。	
	各コマにおける授業予定	1. 子どもの輸液管理と抑制 2. 子どもとその家族への説明 3. サークルベッドの扱い方と安全対策				
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもに必要な検体採取技術について述べるることができる。	小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読する。	
	各コマにおける授業予定	1. 子どもの採尿 2. 子どもの採血における安全を守る技術 3. 子どもの骨髄穿刺と腰椎穿刺における安全を守る技術				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの呼吸症状緩和にむけた看護技術について知ることができる。	小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読する。
		各コマにおける授業予定	1. 子どもへの吸入、吸引 2. 子どもへの酸素投与		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの胸骨圧迫についてモデル人形を用いて実践することができる。	小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読する。
		各コマにおける授業予定	1. 救命処置		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	小児看護技術において特徴的なことをまとめることができる。	小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）	これまでに習った小児看護技術におけるポイントをまとめ、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	八代 理恵	実務経験と その関連資格	大学病院小児科病棟(NICU含む)で勤務 看護師			
《授業科目における学習内容》 1.健康問題や障害をもつ子どもと家族の外来および入院中から退院までの看護と関わり方を学ぶ。 2.子供の示す症状をアセスメントし、その援助方法について学ぶ。 3. 検査・処置を受ける子供の援助について学ぶ。 4.子供への虐待の現状を知り、対応について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》 終講試験で評価を行う。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 小児看護学概論 小児臨床看護各論(医学書院)						
《授業外における学習方法》 初回講義において授業の進め方を提示します。各講義には、該当部分のテキストを通読し気になる点や質問を考えて授業に臨みましょう。参考図書は講義内で提示します。						
《履修に当たっての留意点》 「病態生理学」、「小児看護学概論」、「小児看護援助論Ⅰ」等の学習内容をもとに授業を進めるので、各回授業の関連部分について復習してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康問題や障害が家族に与える影響と看護について理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	子どもの成長発達について、テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理しておく。	
		各コマにおける授業予定	1. 子どもの病気の理解の特徴と説明の原則 2. 病気や入院が成長発達に及ぼす影響と子どもの反応 3. きょうだいや家族に及ぼす影響			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもにみられる主な症状と看護について理解する。(1)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。	
		各コマにおける授業予定	1. 不きげん/啼泣 2. 痛みと看護 3. 呼吸困難、チアノーゼ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもにみられる主な症状と看護について理解する。(2)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。	
		各コマにおける授業予定	1.ショック、意識障害レベルの原因と観察および看護 2.痙攣の原因と看護			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもにみられる主な症状と看護について理解する。(3)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。	
		各コマにおける授業予定	1. 子どもの発熱の特徴と原因および看護 2. 子どもの発疹原因と看護			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもにみられる主な症状と看護について理解する。(4)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。	
		各コマにおける授業予定	1. 嘔吐、下痢、脱水をとまなう子供の看護 2. 便秘の原因と看護 3.出血、貧血、黄疸をとまなう子供の看護			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもの疾病の経過と看護について理解する。(1)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 急性期の子どもと家族の特徴と看護 2. 周手術期の子どもと家族の特徴と看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもの疾病の経過と看護について理解する。(2)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 慢性期の子どもと家族の特徴と看護 2. 終末期の子どもと家族の特徴と看護		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 検査や処置を受ける子どもと家族のプレパレーションについて理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	発表会に向けて各グループで準備を進めておく。
	各コマにおける授業予定	1. プレパレーションの目的・意義 2. インフォームド・アセント/ディストラクションとの関係 3. 小児期各期にある子どもへのプレパレーションの実際(採血)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 検査や処置を受ける幼児前・後期の子どもへのプレパレーションの方法を学ぶ。(1)(演習:発表準備)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	グループでロールプレイの役割を明確にし、発表会に向けて準備を進めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 使用するプレパレーションツールと使い方 2. プレパレーションの展開方法		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 検査や処置を受ける幼児前・後期の子どもへのプレパレーションの方法を学ぶ。(2)(演習:発表会)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	発表会で学んだ幼児前・後期のプレパレーションについてまとめておく。
	各コマにおける授業予定	1. 模擬病室で発表(発表4分 講評1分) 2. プレパレーション演習での学びと感想の記述		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 子どものおかれた状況(環境)に応じた看護について理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 入院中の子供と家族の特徴と看護 2. 外来における子供と家族の特徴と看護 3. 在宅療養の意義と看護 4. 災害時の子供と家族の看護		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 子どものアセスメントとアセスメントに必要な技術について理解する。(デモンストレーション)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 子供に対するコミュニケーション技術 2. 子供の観察と問診の特徴 3. 子どものバイタルサイン測定、計測の方法		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標 心身障害のある子どもと家族の看護について理解する。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 心身障害の定義と種類 2. 家族と子どもの障害の受け止め方 3. 社会資源の活用		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 子どもの虐待の種類と特徴およびケアについて理解する。	テキスト・学習 ノート・事前配布 資料・演習準備 他	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 子どもの虐待の現状、定義、特徴 2. 被虐待児、親へのケア		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 小児に多くみられる症状とアセスメント、病期ごとの看護についてまとめることができる。	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	小児に多くみられる症状とアセスメント、病期ごとの看護について、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	母性援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	山崎 知恵	実務経験と その関連資格	助産師 病院にて助産業務、大学にて看護・助産教育			
《授業科目における学習内容》						
周産期におけるダイナミックな女性の心身の変化は女性とその家族に大きな影響を与える。ここでは、妊娠・分娩の正常な経過とその看護、またその各期に生じやすいハイリスクとその看護について学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシンググラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
専門基礎領域の解剖生理学、病態治療論等を復習して講義に臨むこと。内容が幅広く盛りだくさんであるため、授業の前には必ずテキストからの予習やノートをまとめて授業に臨むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
<ul style="list-style-type: none"> ・演習は積極的に参加すること。演習欠席の場合は指定期日内にレポートを提出すること。(終講試験の必須条件) ・全ての提出物は、必ず指定された形式で完成させて期日厳守の上提出すること。守れない場合は加点対象にはならない 						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠の成立と胎児・胎児付属物について説明できる	テキスト・学習 ノート他		テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	妊娠の成立・胎児と胎児付属物			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠期の身体的変化について説明できる	テキスト・学習 ノート他		テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	妊娠期の身体的変化			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠期の身体的変化・心理・社会的変化について説明できる 妊娠期の母児とその家族への看護の基本について説明できる	テキスト・学習 ノート他		テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	妊娠期の心理・社会的変化 妊娠期の母児とその家族への看護①			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠期の母児とその家族への看護の基本について説明できる	テキスト・学習 ノート他		テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	妊娠期の母児とその家族への看護②			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症/悪阻/切迫流産の看護について説明できる	テキスト・学習 ノート他		テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	ハイリスク妊娠と看護 感染症/悪阻/切迫流産			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	GDM/HDP/胎児機能不全の看護について説明できる	テキスト・学習ノート他	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	ハイリスク妊娠と看護 GDM/HDP/胎児機能不全など		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ペーパーペインメントを用いた母性看護の展開の基本がわかるようになる	テキスト・学習ノート・事前配布資料 他	事前配布資料を熟読し情報の整理をしておく
		各コマにおける授業予定	妊娠期の母児への看護(事例展開)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩の3要素とその経過・看護の基本が説明できる	テキスト・資料・パソコン・パワーポイント	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	分娩期の看護① 分娩の要素と分娩経過		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	正常な分娩進行に伴う産痛緩和・陣痛促進のための看護について説明できる	テキスト・資料・パソコン・パワーポイント	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	分娩期の看護③ 産婦・胎児・家族のアセスメント		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	正常な分娩期を過ごす産婦や胎児・家族に対するアセスメントの基本が説明できる	テキスト・資料・パソコン・パワーポイント	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	分娩期の看護③ 産婦・胎児・家族のアセスメント		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	帝王切開術を受ける産婦や胎児・家族への経過と看護の基本が説明できる	テキスト・資料・パソコン・パワーポイント	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	帝王切開術を受ける産婦の経過と看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩の3要素に関連したハイリスク分娩とその看護の基本が説明できる	テキスト・資料・パソコン・パワーポイント	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	ハイリスク分娩と看護①(分娩の3要素)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩時におこりうる異常出血に関連したハイリスク分娩とその看護の基本が説明できる	テキスト・資料・パソコン・パワーポイント	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	ハイリスク分娩と看護②(分娩時異常出血)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	分娩期の産婦や胎児・家族に必要な看護の基本が実践できる	テキスト・資料・パソコン・パワーポイント・演習準備	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	産婦の看護技術(分娩体験、胎児心拍数モニタリング、産痛緩和)		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ペーパーペインメントを用いた母性看護の展開の基本がわかるようになる	テキスト・学習ノート・事前配布資料 他	事前配布資料を熟読し情報の整理をしておく
		各コマにおける授業予定	分娩期の母児への看護(事例展開)・まとめ/終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	母性援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	時岡 良子	実務経験とその関連資格	看護師・助産師・保健師:病院にて助産業務、看護専門学校にて看護・助産教育			
《授業科目における学習内容》						
正常な産褥期の母児、及びハイリスクな母児と家族への看護を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシンググラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
1. 母性援助論Ⅰを必ず復習し、妊娠・分娩・産褥・新生児を関連付けて学べるよう整理し事前学習しておく。 2. レポートは産褥期・新生児期の事例展開とする。文献を使用しながらまとめる。						
《履修に当たっての留意点》						
1. 演習は積極的に参加すること。演習欠席の場合は指定期日内にレポートを提出すること。(終講試験の必須条件) 2. レポートは必ず指定された形式で完成させて期日厳守の上提出すること。守れない場合は加点対象にはならない						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	出生直後から出生24時間までの新生児の生理的変化と看護の基本が説明できる	テキスト・学習ノート他	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	出生直後から出生24時間までの新生児の看護			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	生後24時間以降の新生児の生理的変化と看護の基本が説明できる	テキスト・学習ノート他	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	新生児の出生24時間以降の看護:子宮外適応現象、養護原則			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	新生児の分娩時、及び出生後のハイリスクとその看護の基本がわかる	テキスト・学習ノート他	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	ハイリスク新生児と看護: 新生児仮死、低出生体重児、高ビリルビン血症、RDS、TTN、新生児出血性疾患			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新生児に必要な看護の基本が実践できる	テキスト・学習ノート・演習準備他	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	演習:新生児の観察・育児技術(沐浴・おむつ交換・更衣等)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	産褥期の退行性変化について説明できる	テキスト・学習ノート他	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	産褥期の退行性変化			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	産褥期の進行性変化について説明できる	テキスト・学習ノート他	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
	各コマにおける授業予定	産褥期の母体の生理的変化(進行性変化)、授乳(新生児の観察含む)、退行性変化と進行性変化の相互作用			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	産褥期の心理的変化・社会的変化について説明できる	テキスト・学習ノート他	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
	各コマにおける授業予定	産褥期の心理的変化・母親役割過程/愛着/母子相互作用			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	産褥期の退行性変化のハイリスクと予防の看護の基本が説明できる	テキスト・学習ノート他	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
	各コマにおける授業予定	ハイリスク産褥期:退行性変化(子宮復古不全、産褥感染症)			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	産褥期の進行性変化のハイリスクと予防の看護の基本が説明できる	テキスト・学習ノート他	テキストの予習やノートをまとめて授業に臨む
	各コマにおける授業予定	ハイリスク産褥期:進行性変化(乳腺トラブル) 産褥期の精神障害について			
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ウェルネス思考を用いた褥婦・新生児のアセスメントの基本についてわかるようになる	テキスト・学習ノート・事前配布資料 他	事前配布資料を熟読し情報の整理しておく
	各コマにおける授業予定	事例展開:ウェルネス思考を用いた看護過程(褥婦・新生児のウェルネスの5つの視点)の基本が説明できる			
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ウェルネスの5つの視点を用いたアセスメント項目の分類・整理ができる	テキスト・学習ノート・事前配布資料 他	グループで情報共有しながら、課題に取り組む準備をして臨む
	各コマにおける授業予定	事例展開:褥婦・新生児の看護展開①			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画の展開をグループで行い、振り返ることができる	テキスト・学習ノート・事前配布資料 他	グループで情報共有しながら、課題に取り組む準備をして臨む
	各コマにおける授業予定	事例展開:褥婦・新生児の看護展開②			
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画の展開をグループで行い、振り返ることができる	テキスト・学習ノート・事前配布資料・演習準備他	グループで情報共有しながら、課題に取り組む準備をして臨む
	各コマにおける授業予定	産褥期の母児の看護展開:シミュレーション①			
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護展開の振り返りを共有し、看護計画の追加・修正ができる	テキスト・学習ノート・事前配布資料・演習準備他	グループで情報共有しながら、課題に取り組む準備をして臨む
	各コマにおける授業予定	産褥期の母児の看護展開:シミュレーション②			
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	周産期の母児とその家族の看護の基本について説明できる	テキスト・学習ノート・事前配布資料・演習準備他	産褥期の母児への看護に関する学習の振り返りをして臨む
	各コマにおける授業予定	産褥期の母児の看護の実践・振り返りとまとめ/終講試験			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	精神看護学概論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	平澤 久一	実務経験とその関連資格	総合病院精神科病棟に34年間勤務、大学での精神看護学教育に20年間従事		

《授業科目における学習内容》

精神医療と看護の歴史的変遷、精神障害者の処遇、現代の社会病理を概観し、心の健康を理解するために心の構造と機能、成長と発達、その課題と危機、心の健康に及ばず諸因子、精神看護に関する諸モデルについて学習する。また、心の看護と特性、治療的関わりと働きかけなど心を病んだ人々の理解と援助を探究する精神看護学の基礎的理解と概念について学習する。

《成績評価の方法と基準》

レポート 20%、終講試験80%にて総合評価する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

1. 使用教材:新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 メヂカルフレンド社
2. 参考図書:平澤久一監修、精神看護の非言語的コミュニケーションUP術、メディカ出版、2010 平澤久一監修、表情看護のすすめ、メディカ出版、2014 平澤久一監修、ユーモア看護一癒やしと和みー、金芳堂、2020

《授業外における学習方法》

テキストのみならず、他の専門誌や日刊紙等から情報を得て、興味本位で書かれた書誌に惑わされず、精神障害者の置かれている社会的状況と一般人間の理解に努めること。

《履修に当たっての留意点》

授業中の私語、携帯電話・スマホの操作、他領域の課題の持ち込みと作業は厳禁とする。また、教科書を事前学習し、精神疾患と症状、状態像とそれらの看護について理解できるよう準備しておくこと。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護とは、正常と異常、心の健康と不健康、社会病理について考え述べることができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	序章 III地域精神保健 III精神看護の分野
	各コマにおける授業予定	序章 I 精神保健で扱われる現象、II 精神的健康の保持・増進としての精神保健		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	(地域精神保健と精神看護分野について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第1章 精神(心)のとらえ方
	各コマにおける授業予定	序章 III地域精神保健、IV精神看護の分野		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	脳の構造と認知機能について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第1章 II 精神(心)の構造と働き
	各コマにおける授業予定	第1章 I 脳の構造と認知機能		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	精神(心)の構造と働きについて述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第2章 I エリクソンの漸成的発達理論、フロイトの性心理発達理論
	各コマにおける授業予定	第1章 II 精神(心)の構造と働き		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	精神(心)の発達理論について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第2章 II ボウルビイの愛着理論、III 乳幼児の発達理論
	各コマにおける授業予定	第2章 フロイトの性心理発達理論、I エリクソンの漸成的発達理論、II ボウルビイの愛着理論 IIIA マーラーの分離個体化理論、IV マズローの欲求5段階説		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族と精神(心)の健康について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第3章 A 家族とは、B 夫婦関係
		各コマにおける授業予定	第3章 A 家族、B 夫婦関係、C 親子関係、D 家族ライフサイクル、E 家族システム		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	暮らしの場と精神(心)の健康について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第4章 暮らしの場と精神(心)の健康
		各コマにおける授業予定	第4章 I 学校と精神(心)の健康、II 職場・仕事と精神(心)の健康、III 地域における生活と精神(心)の健康		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神(心)の危機状況と精神保健について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第5章 精神(心)の危機状況と精神保健
		各コマにおける授業予定	第5章 I 危機とは何か？危機理論・危機モデル、II ストレスコーピング、III 適応と不適応、IV セルフマネジメント		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会と精神(心)の健康について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第6章 現代社会と精神(心)の健康 II A～D
		各コマにおける授業予定	第6章 I 現代社会の特徴:社会構造の変化と社会病理、II 精神保健が関与する社会病理現象A～D		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会と精神(心)の健康について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第6章 現代社会と精神(心)の健康 II E～G
		各コマにおける授業予定	第6章 II 精神保健が関与する社会病理現象E～G		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会と精神(心)の健康について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第6章 現代社会と精神(心)の健康 II H～J
		各コマにおける授業予定	第6章 II 精神保健が関与する社会病理現象H～J		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会と精神(心)の健康について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第6章 現代社会と精神(心)の健康 II K～M
		各コマにおける授業予定	第6章 II 精神保健が関与する社会病理現象K～M		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神医療(看護)の歴史について述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第7章 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 I 精神医療・看護の歴史
		各コマにおける授業予定	第7章 精神医療(看護)の歴史A～B		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	II 精神障害者を守る法・制度、III 精神保健福祉法における医療形態と患者処遇につて述べるができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第7章 II 精神障害をもつ人を守る法・制度、III 精神保健福祉法における医療形態と患者処遇
		各コマにおける授業予定	第7章 II 精神障害者を守る法・制度、III 精神保健福祉法における医療形態と患者処遇		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神保健・精神看護について述べる事ができる	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	授業を振り返り、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	まとめ 終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床援助論Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	服部あすか	実務経験と その関連資格	看護師として病棟勤務		

《授業科目における学習内容》

日々進化していく医療現場での薬物療法の実際や、救命救急処置・輸血・酸素療法等を学び、安全な投与を行うことは患者が治療を受けるための看護師の重大な責務のひとつである。これまでに学んだ基礎医学の知識を基に、看護師として必要な基礎的知識と技術を学び実践することができるようにしていく。

《成績評価の方法と基準》

レポート(20%)、終講試験(80%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

基礎看護技術Ⅱ(医学書院)、看護がみえる①基礎看護技術(メディックメディア)、看護につなげる形態機能学(メヂカルフレンド社)、臨床看護総論(医学書院)

《授業外における学習方法》

解剖生理・薬理学など必要と思われる基礎知識を復習して講義に臨むこと。看護師の知識の無さは 患者の生命にかかわる。看護師としての原理・原則に基づいた確実な知識と技術を身につける努力をすること。

《履修に当たっての留意点》

全ての提出物は、必ず指定された形式で完成させて期日厳守の上提出すること。守れない場合は加対象にはならない。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	与薬に関する基礎的知識、薬物の投与方法について他者に説明できる	テキスト/パソコン/パワーポイント	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
	各コマにおける授業予定	与薬の基礎知識、経口与薬 舌下 点鼻 点耳 皮膚貼付剤 吸入 直腸内投与		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	皮内注射・皮下注射についての原理原則を説明できる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
	各コマにおける授業予定	注射の基礎 皮内注射 皮下注射		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	筋肉注射・静脈内注射についての原理原則を説明できる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
	各コマにおける授業予定	注射の基礎 筋力注射 静脈内注射		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	点滴静脈内注射の管理方法や看護の基本について説明できる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
	各コマにおける授業予定	点滴ルート取り扱いと接続方法・固定・滴下数調整の技術/観察点		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いの基本が説明できる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
	各コマにおける授業予定	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いと看護		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用し、筋肉注射が実施できる	テキスト	事前レポート
		各コマにおける授業予定	筋肉注射の実際と看護		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用し、筋肉注射が実施できる	筋肉注射使用物品	事前レポート
		各コマにおける授業予定	筋肉注射の実際と看護		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	輸血に関する基礎知識がわかり、輸血を受ける患者の看護の基本を述べることができる	筋肉注射使用物品	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	輸血とその看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1次及び2次救急救命処置技術の基本が説明できる	テキスト/パソコン/パワーポイント	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	救命救急の技術		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用して1次救急救命処置を実施することができる	AED、BLS模型	事前レポート
		各コマにおける授業予定	BLS ALS AED の実際		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用して1次救急救命処置を実施することができる	AED、BLS模型	事前レポート
		各コマにおける授業予定	BLS ALS AED の実際		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸を整える基礎的知識がわかるようになる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	呼吸を整える援助技術、酸素吸入、吸引、排痰ケア		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用して、酸素吸入・吸引の技術が実施できる	吸引模型、カテーテル、酸素マスク/カニューラ、酸素ボンベ等	事前レポート
		各コマにおける授業予定	酸素吸入・吸引、排痰ケアの実際と看護		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用して、酸素吸入・吸引の技術が実施できる	吸引模型、カテーテル、酸素マスク/カニューラ、酸素ボンベ等	事前レポート
		各コマにおける授業予定	酸素吸入・吸引、排痰ケアの実際と看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖生理の基礎知識と生殖・発生の仕組みをまとめることができる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護研究 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	石原 啓之	実務経験と その関連資格	滋慶大学大学院 助教 看護師			
《授業科目における学習内容》						
看護研究の目的および研究の基礎を学び、批判的思考や研究的態度を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験70% レポート30点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 別巻 看護研究を使用する。参考図書は随時、紹介する。						
《授業外における学習方法》						
講義と研究デザインの演習をしながら、看護研究の方法を学ぶ。						
《履修に当たっての留意点》						
講義を聴くだけでなく、演習においては、「調べる」「確認する」「相談する」など自発的な学習をする。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護研究の目的が説明できる	系統看護学講座別巻 看護研究(医学書院)資料	系統看護学講座別巻看護研究の序章から第2章、終章を学習しておく	
		各コマにおける授業予定	看護研究とは 看護研究の目的・意義(EBP,EBN)研究のテーマを見つける(リサーチクエスト)リサーチクエストと研究デザイン			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	文献レビューの目的、文献検索の方法が理解できる。	系統看護学講座別巻 看護研究(医学書院)資料	系統看護学講座別巻看護研究の第4・5章、第11章を学習しておく	
		各コマにおける授業予定	研究の種類と研究方法 質的研究と量的研究の研究デザイン 研究における倫理(倫理的配慮、依頼書と同意書)			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	文献レビューの目的、文献検索の方法がわかる。	系統看護学講座別巻 看護研究(医学書院)資料	リサーチクエストを 考えてくる 系統看護学講座別巻看護研究の第3章、第9章の付録文献クリティークを学習しておく	
		各コマにおける授業予定	研究のプロセス①文献レビューと文献を読む(先行研究を知る、資料を集める)			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究計画立案の仕方が理解できる	系統看護学講座別巻 看護研究(医学書院)資料	系統看護学講座別巻看護研究の第8章を学習しておく	
		各コマにおける授業予定	研究のプロセス②研究計画を立てる(研究デザインの選択、倫理的配慮)			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	情報の収集と分析の方法が理解できる	系統看護学講座別巻 看護研究(医学書院)資料	系統看護学講座別巻看護研究の第6章・第7章を学習しておく	
		各コマにおける授業予定	研究のプロセス②データを分析する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成と書き方が理解できる	系統看護学講座別巻 看護研究 (医学書院) 資料	系統看護学講座別巻看護研究の第9章(研究成果・考察の書き方、図表のルール、抄録の書き方、研究論文の推敲)を学習しておく
		各コマにおける授業予定	研究のプロセス③研究を伝える(研究成果を論文にまとめる)		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究成果を論文に表し、発表する方法やプレゼンテーションの方法がわかる	系統看護学講座別巻 看護研究 (医学書院) 資料	系統看護学講座別巻看護研究の第9章(学会発表、発表の形式)、を学習しておく
		各コマにおける授業予定	研究のプロセス④研究成果を伝える(研究成果をプレゼンテーションする:論文の投稿)		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	看護研究のプロセスを説明できる	系統看護学講座別巻 看護研究 (医学書院) 資料	系統看護学講座別巻看護研究の第9章(学会発表、発表の形式)、を学習しておく
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	在宅援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	井上 奈美江 森川 由紀美	実務経験と その関連資格	病院勤務 訪問看護ステーション勤務 看護師免許 介護支援専門員免許 訪問看護ステーション勤務			
《授業科目における学習内容》						
在宅における療養者と家族に対して、個別性に応じた医療的ケアや看護について、演習を通して学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験 井上 40% 森川 60%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア(メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術(メディカ出版)						
《授業外における学習方法》						
ニュースや新聞、厚生労働省のホームページを閲覧し、社会情勢を理解するよう自己学習すること。アイデアなど柔軟な発想が求められる。グループワークや演習もあるため、欠席しないこと。積極的に取り組むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
訪問看護における具体的な在宅療養者への援助について学習する。臨地実習の内容と結びつけながら理解を深めること。						
授業の方法	内 容			使用教材		
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	在宅における呼吸器管理及び緊急時対応、家族への指導の要点がわかる	テキスト 資料	厚生労働省のHP閲覧・ ニュース番組・新聞の閲覧	
		各コマにおける授業予定	在宅における呼吸器管理(HOT・NPPV)の実際(一部、演習)			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	在宅における栄養管理と医療廃棄物の取り扱いがわかる	テキスト 資料	厚生労働省のHP閲覧・ ニュース番組・新聞の閲覧	
		各コマにおける授業予定	在宅における栄養管理(ポート、中心静脈栄養法)の実際(一部、演習)			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	在宅におけるストーマを造設した療養者の自立支援(社会復帰)について自分の意見が言える。	テキスト 資料	厚生労働省のHP閲覧・ ニュース番組・新聞の閲覧	
		各コマにおける授業予定	在宅における排泄管理(ストーマ)の実際(一部、演習)			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	排泄管理が必要な在宅療養者のQOLの向上と必要な看護がわかる	テキスト 資料	厚生労働省のHP閲覧・ ニュース番組・新聞の閲覧	
		各コマにおける授業予定	在宅における排泄管理(自己導尿・バルーン管理)の実際(一部、演習)			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	腹膜透析患者のQOL向上及び生活の維持について、必要な看護がわかる	テキスト 資料	厚生労働省のHP閲覧・ ニュース番組・新聞の閲覧	
		各コマにおける授業予定	在宅における腹膜透析の実際(一部、演習)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	在宅での褥瘡の処置・ケアのために必要な観察や物品の工夫、経済性、継続性を考慮したうえで考えることができる	テキスト資料	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における皮膚・創傷管理(褥瘡・褥瘡予防)の実際(一部、演習)		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	在宅における保清や褥瘡ケアについて、観察及び物品の工夫や手順等が安全・安楽に実施でき、経済性や継続性も考えられる	テキスト資料	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	保清・褥瘡のケア・体位変換の演習		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	学習を振り返ることができる		
		各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	成人援助論IV		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	細山田 啓志 尾形 いずみ	実務経験と その関連資格	細山田:看護師 循環器内科・脳血管集中治療室勤務 尾形:腎・泌尿器・消化器外科病棟で勤務。その後、呼吸器・循環器内科病棟で勤務。			
《授業科目における学習内容》						
内分泌・代謝(内分泌・代謝機能障害・疾患)/血液・免疫機能障害(血液・免疫系症状・疾患)を持つ対象の病態や治療、その影響について学ぶ。また、対象及び家族が健康問題に向き合うための方法について学ぶ。成人期の内分泌・代謝/血液・免疫機能障害を持つ対象のセルフマネジメント能力を高める支援(セルフモニタリング)について考えていく。						
《成績評価の方法と基準》						
細山田(終講試験50%) 尾形(終講試験50%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門 内分泌・代謝(医学書院) 血液・免疫 アレルギー(メディカ出版) 臨床看護総論(医学書院) 各自必要と考える教科書や参考書						
《授業外における学習方法》						
シラバスの準備学習の具体的な内容を参考に学習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
1年次に履修済みの病態治療学(内分泌・代謝/血液・免疫)について復習しておくこと。予習・復習を必ず行った上で受講すること。計画的に学習計画を立案し、取り組むこと。提出物は期限を守ること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	体重変化・身長の変動のある患者の看護について述べる事ができる	テキスト資料	成人看護概論で学習した慢性期の看護について復習しておく	
		各コマにおける授業予定	るい瘦・肥満・浮腫の機序、アセスメントの視点(自覚症状、甲状腺機能低下、パセドウ、クッシング、ヨード系の検査 他)、看護目標と看護活動(日常生活管理)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経・筋症状のある患者の看護について述べる事ができる	テキスト資料	内分泌・代謝障害について病態治療学(内分泌・代謝)について復習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	意識障害、けいれん、振戦の機序、アセスメントの視点(精神面への影響、電解質異常、テタニー、他)、看護目標と看護活動(日常生活管理)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脂質代謝異常のある患者の看護について述べる事ができる	テキスト資料	内分泌・代謝障害について病態治療学(内分泌・代謝)について復習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	脂質代謝異常の機序、アセスメントの視点(肥満、高脂血症、メタボリックシンドローム、他)看護目標と看護活動(日常生活管理)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿酸代謝異常のある患者の看護について述べる事ができる	テキスト資料	内分泌・代謝障害について病態治療学(内分泌・代謝)について復習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	尿酸代謝異常の機序、アセスメントの視点(痛風、他)看護目標と看護活動(日常生活管理)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖代謝異常のある患者の看護について述べる事ができる	テキスト資料	内分泌・代謝障害について病態治療学(内分泌・代謝)について復習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	糖代謝異常の機序、アセスメントの視点(高血糖、自覚症状、分類、治療、合併症、他)			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 糖尿病患者の看護 退院後の日常生活管理(セルフモニタリング)について述べるができる	テキスト資料	内分泌・代謝障害について病態治療学(内分泌・代謝)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	看護活動と看護目標(日常生活管理:セルフモニタリング)について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 糖尿病患者の看護 退院後日常生活管理(セルフモニタリング)について述べるができる	テキスト資料 看護過程の展開に必要と考える教科書	内分泌・代謝障害について病態治療学(内分泌・代謝)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	エンパワメント、自己効力感などをふまえた日常生活管理、セルフモニタリングの維持/向上のための支援		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 貧血のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料 看護過程の展開に必要と考える教科書	内分泌・代謝障害について病態治療学(内分泌・代謝)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	貧血の機序、種類、アセスメントの視点(全身、日常生活への影響、各種貧血、他)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 貧血のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	血液・免疫能障害について病態治療学(血液・免疫)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	看護目標と看護活動(症状緩和、食事・薬物療法、他)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 出血傾向のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	血液・免疫能障害について病態治療学(血液・免疫)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	出血傾向の機序、アセスメントの視点(検査、全身、日常生活への影響、血液疾患、他)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 出血傾向のある患者の看護について述べるができる	テキスト資料	血液・免疫能障害について病態治療学(血液・免疫)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	アセスメントの種類(全身、日常生活への影響、血液疾患、他)、看護目標と看護活動(症状緩和、止血予防、他)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 自己免疫性の症状を有する患者の看護について述べるができる	テキスト資料	血液・免疫能障害について病態治療学(血液・免疫)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	免疫の機序、アセスメントの視点(検査、症状、日常生活への影響、他)、看護目標と看護活動		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 急性骨髄性白血病患者の緩解導入時の看護 退院後の日常生活管理について述べるができる	テキスト資料	血液・免疫能障害について病態治療学(血液・免疫)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	病態生理(症状、原因、検査、治療白血球増多・減少の機序含む)、アセスメントの視点から退院後の日常生活援助を考える		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 急性骨髄性白血病患者の緩解導入時の看護 退院後の日常生活管理について述べるができる	テキスト資料	血液・免疫能障害について病態治療学(血液・免疫)について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	具体的な退院後の日常生活管理(セルフマネジメント支援)を考える		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 内分泌・代謝/血液・免疫機能障害をもつ患者の看護において必要な内容をまとめることができる。	テキスト資料	内分泌・代謝障害、血液・免疫能障害について病態治療学について復習しておくこと
	各コマにおける授業予定	まとめと終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人援助論Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	杉本 千恵	実務経験と その関連資格	外科病棟勤務 看護師			
《授業科目における学習内容》						
成人看護学領域で急激な健康破綻をもたらすものはどのようなものがあるか手術療法を中心に学習し、その人々の心身の苦痛に対して推測し、看護ケアに役立てることが出来る。看護過程を通して手術前後の看護の実際をシミュレーションし、看護の実際を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
終講時の試験を60%、レポート(課題提出)を40%として評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
臨床外科看護総論(医学書院) 臨床外科看護各論(医学書院) はじめてのドレーン管理(メディカ出版)						
《授業外における学習方法》						
自己学習を積極的に行い理解を深めていくこと 図書室の活用をすること						
《履修に当たっての留意点》						
予習復習を必ず行う。提出物は期限厳守すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	周手術期看護の特徴・手術侵襲による生体反応について述べる ことができる	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	周手術期看護の特徴・手術侵襲(ムーアの分類)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者と家族への精神的援助/術前検査のアセスメント/術前オリエンテーションについて述べる ことができる	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	術前看護について①(患者と家族への精神的援助/術前検査のアセスメント/術前オリエンテーション)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体の準備/低栄養/術前訓練と処置について述べる ことができる	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	術前看護について①(身体の準備/低栄養/術前訓練と処置)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術室の環境と看護について理解し、述べる ことができる	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	術前・術中看護について(手術当日の看護/手術室の環境と看護について/麻酔と看護)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	クリティカルケアを受ける患者の看護について述べる ことができる	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	クリティカルケアを受ける患者の看護(ICU看護)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	術後合併症予防にむけた看護について説明することができる。	テキスト(臨床外科看護総論・ドレーン管理)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	術後看護について①(疼痛管理/ドレーン管理/出血管理/創傷管理/呼吸音・腸蠕動音聴取)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	回復を促進にむけた看護について説明することができる。	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	疼痛管理・創傷管理、早期離床		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	社会復帰に向けた支援について説明することができる。	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	術後の生活の再構築、社会資源の活用、家族看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	計画に基づき、演習することができる	7階演習室使用 看護師役・患者役の服装準備 演習課題準備	演習計画を立案しておく
		各コマにおける授業予定	回復を促進するための看護(術後清拭・バルン抜去・第一歩行)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下で手術を受けた患者に対する術後の情報を整理することができる。	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	事例における事前学習を進めておく アセスメントの資料をあつめておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の看護過程(全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の情報の整理)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後のアセスメントを計画的に進めることができる	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	事例における事前学習を進めておく アセスメントの資料をあつめておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の看護過程(全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後のアセスメント)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後のアセスメントを発表することができる	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	アセスメントを計画的に進め発表できる準備をしておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の看護過程(全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後のアセスメント)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の関連図を作成することができる	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の関連図の資料を集めておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の看護過程(全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の関連図)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の看護計画立案を計画的に進めることができる	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の計画の資料を集めておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の看護過程(全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の看護計画)		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する看護についてまとめることができる。	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人援助論VI		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	高塚恵民/高山良子	実務経験と その関連資格	看護師			
《授業科目における学習内容》						
終末期にある対象と家族の治療と苦痛の理解と対象と家族の意志を尊重し、その人らしく過ごせるための支援について考えることができる。						
《成績評価の方法と基準》						
高塚:終講試験(50%)、高山:終講試験(50%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
緩和ケア(医学書院) 終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア がん看護学(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
厚生労働省ホームページほか						
《履修に当たっての留意点》						
教科書を読んで、予習すること。既習の科目と併せて学習していくようにする。授業で習ったことをもとに、自分の考えをまとめておく。 事例を読んでおくこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	死について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)		事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	死の理解①生物学的な死②法律上の死③文化的な死④社会的な死			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期における医療の現状について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)		事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	・終末期と終末期医療 ・日本における終末期医療と看護 ・終末期医療の歴史			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期における医療の目的と場の特性について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)		事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	・患者の意向と医療、ケアの提供 ・終末期の患者が望む医療 ・終末期医療の場の特徴			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	緩和ケアについて理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)		事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	・緩和ケアの考え方、緩和ケアの対象 ・全人的苦痛・包括的アセスメント ・苦痛の緩和・セルフケア支援 ・チームアプローチにおける連携・家族支援			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、終末期にある患者について理解することができる。(全体像のアセスメント)	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)		事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	終末期にある患者の特徴 ・身体的、精神的、社会的、スピリチュアル的特徴			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 終末期にある患者の家族へのケアのありかたについて理解することができる。(家族のアセスメント)	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
	各コマにおける授業予定	家族看護と家族 大切な人が終末期にある家族の体験 遺された家族の体験		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 終末期医療における看護の機能・役割について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
	各コマにおける授業予定	①終末期医療における看護のかかわり ②終末期医療における看護の成果 ③終末期医療における看護の専門性		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 終末期医療における多職種連携と看護の役割について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
	各コマにおける授業予定	・終末期医療、ケアにおけるチーム医療 ・医療チームの種類と要件		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 終末期患者とのコミュニケーション方法について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
	各コマにおける授業予定	・悪い知らせを伝える際のコミュニケーション ・終末期の意思決定場面におけるコミュニケーション		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 終末期患者とのコミュニケーション方法について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
	各コマにおける授業予定	・治療中止時期のコミュニケーション ・終末期のコミュニケーション(コミュニケーションの実際)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 臨死期のケアについて理解できる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
	各コマにおける授業予定	臨死期に特徴的な症状や問題		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 臨終後のケアについて理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかりと確認し、予習をして臨むこと。
	各コマにおける授業予定	・臨終後の流れ ・死亡確認 ・エンゼルケア(DVD)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標 終末期医療における看護師の役割について考えることができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	これまでの授業の振り返りしておく。
	各コマにおける授業予定	・化学療法、放射線療法を受けている患者への看護		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 終末期医療における看護師の役割について考えることができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	これまでの授業の振り返りしておく。
	各コマにおける授業予定	・最期の時を過ごす、対象と家族との関わり ・死生観について考える		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 終末期に必要な看護について内容をまとめることができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	これまでの授業の振り返りしておく。
	各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 不定期	教室名	2年教室
担 当 教 員	中村晶／森本ユカリ／濱田智子	実務経験とその関連資格	中村・森本:看護師として病棟勤務 濱田:歯科医師(口腔外科)大学病院にて急性期観血的処置治療や口腔顎顔面領域の診療に従事。			
《授業科目における学習内容》						
老年期の特徴を踏まえた、栄養(代謝)・排泄に必要な看護を学ぶことができる。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験にて評価 (濱田 :10%、森本:45%、中村:45%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
中村・森本:老年看護学① 高齢者の健康と障害(メディカ出版) 老年看護学② 老年看護の実践(メディカ出版) 濱田:成人看護学(15)歯・口腔(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
各疾患の看護の授業までに疾患の病態生理、検査、治療について教科書や病態生理学の授業資料や教科書を使用しながら復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
事前学習・復習は必ず行うこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の口腔機能の特徴とケアを述べるができる (濱田)	教科書・配布資料		授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①高齢者の口腔機能の特徴 ②摂食嚥下障害のアセスメント			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の口腔機能の特徴とケアを述べるができる (濱田)	教科書・配布資料		授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①摂食嚥下障害のアセスメント ②摂食嚥下障害の看護と評価			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の食生活・栄養状態のアセスメント方法とケアを述べることができる (中村)	教科書・配布資料		授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①食生活②高齢者にとって必要なエネルギーと栄養③食事に影響を及ぼす要因④食事のアセスメント⑤食事のセルフケア支援のポイント⑥口腔ケア (ゴードン:栄養/代謝)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の脱水のアセスメント方法とケアを述べるができる (中村)	教科書・配布資料		授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	①高齢者の脱水症の背景と特徴②脱水症のアセスメント③脱水症の看護と評価(ゴードン:栄養/代謝)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の低栄養のアセスメント方法とケアを述べることができる (中村)	教科書・配布資料		《予習課題》 テキストの該当ページを読み、漢字の読み方・不明な単語を調べておくこと
		各コマにおける授業予定	①高齢者の低栄養の背景と特徴②低栄養のアセスメント③栄養管理と評価(ゴードン:栄養/代謝)④食環境を整える援助⑤義歯の取り扱い			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の肺炎の特徴とアセスメント方法が理解できる。(中村)	教科書・配布資料	《予習課題》 テキストの該当ページを読み、漢字の読み方・不明な単語を調べておくこと
		各コマにおける授業予定	①高齢者の肺炎の背景と特徴②肺炎のアセスメント③肺炎の看護と評価		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄を支える看護について理解することができる。(森本)	教科書・配布資料	《予習課題》 テキストの該当ページを読み、漢字の読み方・不明な単語を調べておくこと
		各コマにおける授業予定	①排泄行動の自立②加齢による排尿の変化③加齢による排便の変化		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	排泄を支える看護について理解することができる。(森本)	教科書・配布資料	《予習課題》 テキストの該当ページを読み、漢字の読み方・不明な単語を調べておくこと
		各コマにおける授業予定	①排泄動作に必要な主な生活機能(身体機能・認知機能)②排泄のアセスメント③排泄の支援(ゴードン:排泄)コンフォート理論を用いて		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄を支える看護について理解することができる。(森本)	パソコン プロジェクター	《予習課題》 テキストの該当ページを読み、漢字の読み方・不明な単語を調べておくこと
		各コマにおける授業予定	①高齢者の尿失禁の病態②尿失禁のアセスメント③尿失禁の看護(ゴードン:排泄)コンフォート理論を用いて		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄を支える看護について理解することができる。(森本)	パソコン プロジェクター	《予習課題》 テキストの該当ページを読み、漢字の読み方・不明な単語を調べておくこと
		各コマにおける授業予定	①高齢者の排便障害(便秘・下痢・便失禁)の病態②排便障害(便秘・下痢・便失禁)(ゴードン:排泄)コンフォート理論を用いて		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄を支える看護について理解することができる。(森本)	パソコン プロジェクター	《予習課題》 テキストの該当ページを読み、漢字の読み方・不明な単語を調べておくこと
		各コマにおける授業予定	①排便障害の看護(ゴードン:排泄)コンフォート理論を用いて		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	排泄を支える看護について理解することができる。(森本)	各自が必要と思う教科書・資料・配布した教材	《予習課題》 テキストの該当ページを読み、漢字の読み方・不明な単語を調べておくこと
		各コマにおける授業予定	高齢者のおむつ交換		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の皮膚の特徴と掻痒の関係について理解することができる。(中村)	各自が必要と思う教科書・資料・配布した教材	《予習課題》 テキストの該当ページを読み、漢字の読み方・不明な単語を調べておくこと
		各コマにおける授業予定	①老年期に伴う皮膚の変化②		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	褥瘡の発生要因、発生予防について理解することができる。(中村)	各自が必要と思う教科書・資料・配布した教材	《予習課題》 テキストの該当ページを読み、漢字の読み方・不明な単語を調べておくこと
		各コマにおける授業予定	①褥瘡の発生機序、好発部位、危険因子 ②褥瘡のアセスメントと評価②治療と看護		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	老年期の特徴を踏まえた栄養、代謝、排泄に必要な看護についてまとめることができる。	各自が必要と思う教科書・資料・配布した教材	《予習課題》 テキストや配布資料を用いて復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	林 仁美/松永 絵里加	実務経験と その関連資格	林:小児病棟で看護師として勤務 松永:小児病棟で看護師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
1.小児各期に特有な健康障害 2.発達段階に応じた看護過程展開(援助計画の立案)						
《成績評価の方法と基準》						
林:終講試験で評価(40%)、レポートで評価(30%) 松永:終講試験で評価(30%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
小児看護学概論/小児臨床看護各論 小児臨床看護各論(医学書院) 【参考図書】発達段階からみた小児看護過程(医学書院)、子どもの病気の地図帳(講談社)						
《授業外における学習方法》						
小児各期の成長発達を復習し、各講義の該当部分のテキストを通読し授業に臨んでください。また、疾患をもつ子どもと家族が医療の主体である看護を提供する、ということの理解を深めましょう。						
《履修に当たっての留意点》						
「病態生理学」「小児看護学概論」「小児援助論Ⅰ・Ⅱ」などをもとに授業を進めるので、各授業の予習、復習をしておくこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	先天的な問題のある子どもが理解できる。 (ダウン症候群/ターナー症候群・クラインフェルター症候群)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論		学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	1. ダウン症候群の病態・症状・治療 2. ターナー症候群・クラインフェルター症候群の病態・検査・治療			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	先天的な問題のある子どもが理解できる。 (心室中隔欠損症/ファロー四徴症)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論		学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	1.心室中隔欠損症の病態・症状・治療 2.ファロー四徴症の病態・症状・治療			
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器感染症と小児感染症が理解できる。(A溶連菌、グループ、RSウイルス、マイコプラズマ、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎など)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論		学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	1.呼吸器感染症の病態・治療・検査 ①上気道感染 ②肺炎 2.小児感染症の病態・治療・検査 ①ウイルス感染症 ②細菌感染症			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手術が必要な消化吸収障害ある子どもが理解できる。(口裂・口蓋裂/鎖肛/腸重積/胆道閉鎖症)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論		学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	1.口裂・口蓋裂の症状・治療 2.鎖肛の分類・症状・治療 3.腸重積の病態・症状・治療 4.胆道閉鎖症の分類・症状・治療			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	化学療法を受ける子どもが理解できる。(白血病/脳腫瘍/神経芽腫/骨肉腫)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論		学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	1.小児がんの種類と頻度 2.白血病の病態・症状・治療 3.主な固形腫瘍とその特徴			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	内分泌・代謝機能に異常のある子どもが理解できる。(1型糖尿病/成長ホルモン分泌不全性低身長/骨折)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 1型糖尿病の病態・症状・治療 2. 成長ホルモン分泌不全性低身長の診断・治療 3. 骨折の病態・症状・治療		
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	排泄機能に異常のある子どもが理解できる。(尿路感染症/糸球体腎炎/ネフローゼ症候群)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 尿路感染症の病態・症状・治療 2. 糸球体腎炎の病態・症状・治療 3. ネフローゼ症候群の病態・症状・治療		
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	アレルギー・免疫機能に異常のある子どもが理解できる(1) (血管性紫斑病/川崎病)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 血管性紫斑病の病態・症状・治療 2. 川崎病の病態・症状・治療		
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	アレルギー・免疫機能に異常のある子どもが理解できる(2) (食物アレルギー/気管支喘息)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	学習した内容を、講義資料、参考文献を用いて整理し、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	1. 食物アレルギーの病態・症状・治療 2. 気管支喘息の病態・症状・治療		
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	子どもと家族のセルフモニタリングのための援助を考慮することができる。(気管支喘息のある学童前期)(1)	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	提示された事例を読み込み、病態生理、看護、病態関連図を学習しておく。
	各コマにおける授業予定	1. 情報の分類とアセスメント(個人ワーク)		
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	子どもと家族のセルフモニタリングのための援助を考慮することができる。(2) 個人ワーク	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	全体関連図、アセスメントの追加・修正を行う。気管支喘息の子どもの標準看護計画を学習しておく。
	各コマにおける授業予定	1. 全体関連図の作成		
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	子どもと家族のセルフモニタリングのための援助を考慮することができる。(3) 個人ワーク	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	全体関連図、アセスメント、援助計画の追加・修正を行う。
	各コマにおける授業予定	(事例:気管支喘息のある学童前期) 1. 観察項目と援助項目の抽出 2. 発達段階をふまえた援助計画の立案		
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	子どもと家族のセルフモニタリングのための援助を考慮することができる。(4) グループワーク	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	自分の記録の追加・修正をしておく。
	各コマにおける授業予定	(事例:気管支喘息のある学童前期) 1. 援助計画の確認、追加・修正 2. 発表会に向け全体関連図と援助計画の決定		
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	子どもと家族のセルフモニタリングのための援助を考慮することができる。(5)グループワーク/個人ワーク	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	自分の記録の追加・修正をしておく。
	各コマにおける授業予定	(事例:気管支喘息のある学童前期) 1. 援助計画の発表 2. まとめ(演習での学びと今後の課題)		
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	小児期の健康障害の特徴と看護についてまとめることができる	小児看護学概論 /小児臨床看護 総論 小児臨床 看護各論	授業を振り返り、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	終講試験 まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	母性援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	時岡 良子	実務経験とその関連資格	看護師・助産師・保健師:病院にて助産業務、看護専門学校にて看護・助産教育			
《授業科目における学習内容》						
女性生殖器機能障害を持つ対象の疾患/看護について学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学9 医学書院						
《授業外における学習方法》						
解剖生理・病態治療学など関連基礎科目の十分な復習と予習を行って授業に臨むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
レポートは必ず指定された形式で完成させて期日厳守の上提出すること。守れない場合は加点対象にはならない						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	女性生殖器疾患の看護の基本/検査の看護が説明できる	テキスト 学習ノート その他	テキストからの予習やノートをまとめて授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	女性生殖器疾患の看護の基本 女性生殖器疾患の症状と看護 検査を受ける患者の看護			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	不妊症/不育症の患者の看護が説明できる	テキスト 学習ノート その他	テキストからの予習やノートをまとめて授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	不妊症/不育症と看護			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	卵巣疾患の患者の看護が説明できる	テキスト 学習ノート その他	テキストからの予習やノートをまとめて授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	卵巣疾患(卵巣嚢腫/卵巣がん)と看護			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	子宮疾患の看護が説明できる	テキスト 学習ノート その他	テキストからの予習やノートをまとめて授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	子宮疾患(子宮筋腫/内膜症/子宮頸がん/子宮体がん)と看護			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症/STIの看護が説明できる	テキスト 学習ノート その他	テキストからの予習やノートをまとめて授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	感染症/STIと看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢現象に伴って起こる女性の疾患の看護が説明できる	テキスト 学習ノート その他	テキストからの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	更年期障害/骨盤臓器脱と看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳房疾患の看護が説明できる	テキスト 学習ノート その他	テキストからの予習やノートをまとめて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	乳房疾患(乳がん)と看護		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	女性生殖器疾患の患者が持つボディイメージの変容や喪失管への看護について説明できる	テキスト 学習ノート その他	女性生殖器疾患とその看護についての学習の振り返りをして臨む
		各コマにおける授業予定	女性生殖器疾患看護展開の基本とまとめ/終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	精神援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	森本 聡	実務経験とその関連資格	経歴:精神科病院勤務 精神科訪問看護に従事したのち訪問看護ステーションに勤務 資格: 看護師			
《授業科目における学習内容》						
精神障害者への看護の役割を理解し、対人関係のための基礎的理論を理解する。精神に障害を持つ人の社会適応能力をアセスメントする方法が理解できる。社会復帰に向けた取り組みと、資源の活用について理解できる。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験で評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
(メヂカルフレンド社) 精神看護学 精神障害をもつ人の看護						
《授業外における学習方法》						
精神疾患・精神症状についてテキストを使用しながら復習を行う事						
《履修に当たっての留意点》						
退院に向けた看護や多職種連携を学んでいく。精神看護学だけでなく、他の領域とリンクするところなので、合わせて学習すること						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神を病むことを、健康的側面から見ることで心のケアの対象について考える事ができる。	(メヂカルフレンド社) 精神看護学 精神障害をもつ人の看護	病の定義 精神障害と差別	
		各コマにおける授業予定	「精神(心)を病む」とはどのようなことか 精神障害を持つ人のどのようなことを経験しかんじているか			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害と共に生きるとはどのようなことかについて考える事ができる	(メヂカルフレンド社) 精神看護学 精神障害をもつ人の看護	精神障害をもつ人の経験	
		各コマにおける授業予定	精神障害を社会がどのようにみてきたか リカバリーの概念			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科リハビリテーションについて述べる事ができる	(メヂカルフレンド社) 精神看護学 精神障害をもつ人の看護	主な精神疾患・障害と治療法	
		各コマにおける授業予定	精神科リハビリテーション療法・精神療法の日常性			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域生活を支える社会制度について述べる事ができる	(メヂカルフレンド社) 精神看護学 精神障害をもつ人の看護	精神障害をもつ人の地域における生活への支援	
		各コマにおける授業予定	地域精神保健福祉と社会参加			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	入院患者の地域生活への支援について述べる事ができる	(メヂカルフレンド社) 精神看護学 精神障害をもつ人の看護	精神障害をもつ人の地域における生活への支援	
		各コマにおける授業予定	地域生活移行支援の実際			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域で生活をするための関わり方や、対象を支える資源を述べる事が出来る	(メヂカルフレンド社) 精神看護学 精神障害をもつ人の看護	精神障害をもつ人の地域における生活への支援
	各コマにおける授業予定	地域生活支援の実際		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 災害時の精神保健活動やリエゾン精神看護専門看護師の役割にを述べる事が出来る	(メヂカルフレンド社) 精神看護学 精神障害をもつ人の看護	災害時の精神医療活動の基本 リエゾン精神医学とリエゾン精神看護学の発展
	各コマにおける授業予定	災害時の精神保健医療活動と心のケア リエゾン精神看護活動について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神障害者への看護の役割を述べる事が出来る	(メヂカルフレンド社) 精神看護学 精神障害をもつ人の看護	授業を振り返り、理解を深めておく。
	各コマにおける授業予定	まとめ・終講試験		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	米良和彦/谷所さおり 松田圭司	実務経験と その関連資格	精神科病院及び訪問看護ステーションでの勤務経験あり			
《授業科目における学習内容》						
精神科における主要な検査・治療・処置と、それらを受ける対象の看護を理解できる。 主要な状態増像と、それらを呈する対象の看護を理解できる。 プロセスレコードを活用し患者へのかかわり方について考える事ができる。 精神科での治療/治療の副作用や生活障害について理解する事ができる 緊急事態の対処法と予防法について理解できる						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験 100% (米良25% 松田50% 谷所25%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護						
《授業外における学習方法》						
精神疾患の治療は薬物療法が中心となるので、薬について学習すること。また、作業療法などの治療法ではその根拠が精神疾患の特徴をおさえてものになっているように、老年看護学や他の分野と区別がつくように整理すること。適宜国家試験問題を解き、知識の確認をすること。						
《履修に当たっての留意点》						
プロセスレコードは事例学習になるが、自分が書いたとして分析と今後の方策を具体的に述べること。精神症状は、医師の講義する疾患のメカニズムとリンクさせ、症状のステージにあわせて起こりうる副作用とその治療法を理解し、看護の視点が述べられるようにすること。引き続き精神看護Ⅲにて、事例展開で活用していく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者-看護師関係でおきる現象の仕組みを知り、プロセスレコードを活用した、関わり方を説明できる	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	患者看護師関係	
		各コマにおける授業予定	精神障害を持つ人とのかかわり方① 患者-関係が目指す事			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者-看護師関係でおきる現象の仕組みを知り、プロセスレコードを活用した、関わり方を説明できる	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	患者看護師関係	
		各コマにおける授業予定	精神障害を持つ人とのかかわり方② 精神障害の持つ人の関わり			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	患者-看護師関係でおきる現象の仕組みを知り、プロセスレコードを活用した、関わり方を説明できる	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	精神障害を持つ人とのコミュニケーション	
		各コマにおける授業予定	精神障害を持つ人とのかかわり方③ プロセスレコードの活用方法(書き方)			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	患者-看護師関係でおきる現象の仕組みを知り、プロセスレコードを活用した、関わり方を説明できる	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	精神障害を持つ人とのコミュニケーション	
		各コマにおける授業予定	精神障害を持つ人とのかかわり方④ プロセスレコードの活用方法			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害をもつ人への看護援助セルフケア援助について述べる事ができる	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	精神障害を持つ人への看護援助への展開	
		各コマにおける授業予定	セルフケア援助の方法 セルフケア理論について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害をもつ人へのセルフケアマネジメントにつ述べる事ができる	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	精神障害をもつ人への看護
		各コマにおける授業予定	セルフケアマネジメント背景 服薬自己管理		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神疾患とその症状・看護を述べる事が出来る	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	主要精神疾患の看護
		各コマにおける授業予定	統合失調症患者の看護 陰性症状・陽性症状の看護		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神疾患とその症状・看護を述べる事が出来る	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	主要精神疾患の看護
		各コマにおける授業予定	パーソナルティー障害の理解と対象の看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神疾患とその症状・看護を述べる事が出来る	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	主要精神疾患の看護
		各コマにおける授業予定	依存症の患者の看護 アルコール 薬物依存症		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神疾患とその症状・看護を述べる事が出来る	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	主要精神疾患の看護
		各コマにおける授業予定	神経性障害の患者の看護 強迫性障害 PTSD		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神疾患とその症状・看護を述べる事が出来る	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	主要精神疾患の看護
		各コマにおける授業予定	身体疾患を合併した患者の看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神疾患への様々な治療法や有害反応と、看護としての観点を述べる事が出来る	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	事故防止・安全管理・倫理的配慮
		各コマにおける授業予定	精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮① 精神看護におこえる安全管理		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	人権と治療とのバランスの上に立つ安全について学び、具体的に緊急事態に対する対処と予防について述べる事が出来る	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	事故防止・安全管理・倫理的配慮
		各コマにおける授業予定	精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮② 自傷・自殺企図・自傷行為 暴力予防プログラム		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	人権と治療とのバランスの上に立つ安全について学び、具体的に緊急事態に対する対処と予防について述べる事が出来る	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	事故防止・安全管理・倫理的配慮
		各コマにおける授業予定	精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮③ 離院・身体拘束 ④事例を活用し安全で快適である療養環境について考える		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科における主要な検査・治療・処置と、それらを受ける対象の看護について述べる事ができる	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	授業を振り返り、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	まとめ・終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) <small>時間(単位)</small>
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	松下 有美子	実務経験と その関連資 格	看護師として精神科病棟勤務			
《授業科目における学習内容》 主要な精神疾患をもつ対象への看護を学ぶ 精神疾患が日常生活に及ぼす影響を理解し、セルフケア不足の観点から援助を導き出せる。 既習の知識・技術を活用し、対象に合わせた看護の方法を学ぶ 対象の願いを聞き、その願いを叶えるための目標と計画を立案する方法を学 ぶ 学びを他者と共有することで、次回同じ場面に合ったときに、よりよく看護をするための方法を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》 レポート60% 終講試験40%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護						
《授業外における学習方法》 グループワークをするための課題を出す。自分の意見を大切にしたいので、できるだけ自分の言葉でつづる。その 上で他者と意見を交えることでよりよいものにしていく。様々な見方を講義やグループワークで学ぶので、自分の視 野がひろがっていくことを確認しながら学習すること。						
《履修に当たっての留意点》 テキスト・資料を読んで受講すること。授業態度、グループワークの参加態度も評価に加味する。演習は精神看護学実習とリンク させながら講義をするので、1時間1時間を大切に受講すること。グループワークの場合は他者任せにならないこと。演習は自宅 にて課題を行ってから望むこと。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	精神疾患とその症状・看護を述べる事が出来る	精神障害を持つ 人の看護(メヂ カルフレンド社)	課題の取り組み	
		各コマに おける 授業予定	双極性障害の患者の看護			
第2回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	事例を通して、認知の幅を広げる視点を述べる事が出来る	精神障害を持つ 人の看護(メヂ カルフレンド社)	課題の取り組みと、グ ループワークを活用し て課題の追加修正	
		各コマに おける 授業予定	看護援助の基本構造 精神看護におこえるアセスメントと看護 計画 双極性障害の患者 事例展開			
第3回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	対象の言動の意味を理解し、看護問題を抽出するために、発達 課題(過去の理解)の活用方法を述べる事が出来る	精神障害を持つ 人の看護(メヂ カルフレンド社)	課題の取り組みと、グ ループワークを活用し て課題の追加修正	
		各コマに おける 授業予定	双極性障害の患者 事例展開			
第4回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	対象の治療とその効果、副作用にあわせた看護の視点を述べる 事が出来る	精神障害を持つ 人の看護(メヂ カルフレンド社)	課題の取り組みと、グ ループワークを活用し て課題の追加修正	
		各コマに おける 授業予定	双極性障害の患者 事例展開			
第5回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	対象のありたい姿に合わせた看護と社会資源の活用を述べるこ とが出来ると	精神障害を持つ 人の看護(メヂ カルフレンド社)	課題の取り組みと、グ ループワークを活用し て課題の追加修正	
		各コマに おける 授業予定	双極性障害の患者 事例展開			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	対象のありたい姿に合わせた看護と家族支援について述べる事ができる	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	課題の取り組みと、グループワークを活用して課題の追加修正
		各コマにおける授業予定	双極性障害の患者 事例展開		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	対象の看護問題と、その看護をこれまでの課題を活用して述べる事が出来る	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	課題の取り組みと、グループワークを活用して課題の追加修正
		各コマにおける授業予定	双極性障害の患者 事例展開		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	対象の看護問題と、その看護をこれまでの課題を活用して述べる事が出来る	精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	授業を振り返り、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	まとめ・終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	国際看護 I		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	海外または教室
担 当 教 員	海外事業部職員 萩原邦子	実務経験と その関連資格	看護師にて病棟勤務、海外経験あり			
《授業科目における学習内容》						
海外研修視察により、海外の医療事情および看護のあり方の実際について学ぶ。 1.他国の医療事情について文化との関連から考えることができる。 2.他国の看護に触れ、日本の看護について考えることができる。 3.研修先で日本の看護についてプレゼンテーションを行い、情報交換できる。 4.学生間交流を通し、看護に対する考えを共有できる。						
《成績評価の方法と基準》						
課題・レポート内容で評価する。 60点以上で単位認定となる。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料 各自参考文献やネット検索で収集する。						
《授業外における学習方法》						
まずは相手国の状況について十分に学習し、日本の現状と比較し理解を深め、説明できるようにしておくこと。また海外研修では積極的にコミュニケーションをとり、自分を表現し、その地域の文化も含め看護の理解につとめるようにすること。						
《履修に当たっての留意点》						
海外研修先の文化を尊重した態度で学習する。また、積極的に英語でコミュニケーションをとり多文化の中で多くの学びを得てほしい。 最も大事なことは、体調管理であり、出発前からの健康管理を万全にすること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカにおける健康課題、ヘルスケアシステムについて説明できる。	配布資料 各自の学習ノート	アメリカの文化・健康を取り巻く課題を調べる	
		各コマにおける授業予定	アメリカにおける健康課題、ヘルスケアシステムについて			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	参加した授業①の内容をノートにまとめることができる。	配布資料 各自の学習ノート	講義テーマについての事前学習	
		各コマにおける授業予定	研修校における授業参加			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	参加した授業②の内容をノートにまとめることができる。	配布資料 各自の学習ノート	講義テーマについての事前学習	
		各コマにおける授業予定	研修校における授業参加			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	施設見学で関心を持った点について、質問する事ができる。	配布資料 各自の学習ノート	アメリカの施設に関する事前学習	
		各コマにおける授業予定	研修校における施設見学(病院、ナーシングホームなど)			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	学生発表会に参加し、発表内容に対して、意見が言える。	配布資料 各自の学習ノート	研究の発表原稿・PPの確認・修正	
		各コマにおける授業予定	学生間交流、相互研究発表			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	積極的にコミュニケーションをとり、交流する事が出来る。	配布資料 各自の学習ノート	日常英会話を復習
		各コマにおける授業予定	学生間交流、文化交流会		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	文化・習慣等を体感し、日本文化との相違をまとめることができる。	配布資料 各自の学習ノート	日常英会話を復習
		各コマにおける授業予定	全研修期間における活動		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	学びを他者にわかりやすいように発表し、他者の発表には意見を発言できる。	配布資料 各自の学習ノート	まとめ
		各コマにおける授業予定	研修まとめ、発表(学びの共有)		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	国際看護Ⅱ		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	萩原 邦子 (補佐:専任教員)	実務経験と その関連資格	看護師にて病棟勤務、海外経験あり			
《授業科目における学習内容》						
1.他国の医療事情について文化との関連から考えることができる 2.他国の看護を調べ、日本の看護について考えることができる 3.他国と日本の看護について、その相違と他国の看護を考察できる 4.プレゼンテーションを通して、参加者と意見交換を行うことができる						
《成績評価の方法と基準》						
レポート・発表内容100% 60%以上で単位認定とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
国際化と看護(メディカ出版) その他、各自のテーマに応じた文献を選択する。						
《授業外における学習方法》						
テーマに応じた内容を積極的に自己学習しまとめる。						
《履修に当たっての留意点》						
個人ワークが主ですので、問題意識を持って世界の国々を調べ、考察を加えること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	関心のある国を選定できる。	テキスト 各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習	
		各コマにおける授業予定	他国の健康課題、ヘルスケアシステムについて			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	選択した国の現状を把握する。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習	
		各コマにおける授業予定	選択した国の文化、健康課題、ヘルスケアシステムについて 日本との相違			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	選択した国の健康課題を明確にできる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習	
		各コマにおける授業予定	選択した国の健康課題			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	選択した国の健康課題を明確にできる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習	
		各コマにおける授業予定	文献(AJN)抄読			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	選択した国の健康課題解決に向けた取り組みを調べられる。 日本との相違	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習	
		各コマにおける授業予定	選択した国のヘルスケアシステムについて			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	選択した国の健康課題解決に向けた取り組みを調べられる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	選択した国の健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	選択した国のオリジナルな健康課題解決策を考察できる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	選択した国の文化、健康課題、ヘルスケアシステムから		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	他者にわかりやすく自己のテーマと考察内容を発表でき、意見交換できる。	各自参考文献を持参	発表資料を作成
		各コマにおける授業予定	研修まとめ、発表(学びの共有)		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護管理		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	3年教室
担 当 教 員	三井佐代子	実務経験とその関連資格	看護部長・看護行政近畿地方医務局、近畿厚生局等で、看護行政職。			
《授業科目における学習内容》						
<p>看護者としてのリーダーシップ、調整、カウンセリング、コンサルタント、教育、意思決定などの臨床実践力を構築する為の理論や技術を学ぶ。 また、看護部の組織の一員としてのあり方、看護師としての姿勢を考える。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
看護管理(医学書院) 看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)						
《授業外における学習方法》						
看護管理(医学書院) 看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)を読んで授業を受ける						
《履修に当たっての留意点》						
社会や組織が看護者に求めている動向を知り、組織人として果たすべき役割を考える。今回の講義内容と実習での経験を結び付けて考える。実習・ケーススタディを基に高い倫理観を養う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護管理とは何かがわかる	看護管理(医学書院) 看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)	看護管理とは何を指すのかテキストからピックアップしておく。	
		各コマにおける授業予定	看護管理とは何か			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	病院組織・看護部組織の成り立ちを理解し説明することができる	看護管理(医学書院) 看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)	病院・看護部門の組織図を調べる	
		各コマにおける授業予定	病院・看護部門の基本的成り立ち			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護管理の役割を理解し説明することができる	看護管理(医学書院) 看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)	看護管理部門の基本的役割についてのテキストの箇所を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	看護管理部門の基本的役割			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	スタッフナースに求められる管理的役割が理解し説明できる	看護管理(医学書院) 看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)	スタッフナースに求められる管理的役割についてのテキストの箇所を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	スタッフナースに求められる管理的役割			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護管理の今日的役割が理解し説明できる	看護管理(医学書院) 看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)	看護管理の今日的役割をテキストからピックアップしておく。	
		各コマにおける授業予定	看護管理の今日的役割			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護倫理について理解し述べることができる	看護管理 (医学書院) 看護者の基本的 責務(日本看護 協会出版会)	看護倫理要項を読んで 臨む
		各コマにおける授業予定	看護倫理について①		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護倫理について理解し述べることができる	看護管理 (医学書院) 看護者の基本的 責務(日本看護 協会出版会)	看護倫理について実習 経験から問題と考える 場面を抽出する。
		各コマにおける授業予定	看護倫理について②		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護倫理について理解し述べることができる	看護管理 (医学書院) 看護者の基本的 責務(日本看護 協会出版会)	看護倫理を学ぶ意義を 考えておく。
		各コマにおける授業予定	看護倫理について③		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科目区分	その他	授業の方法	講義
科目名	在宅援助論Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	3年次	学期及び曜時限	前期	教室名	3年教室
担当教員	井上 奈美江(70%) 森川由紀美/ 平山 司 樹(30%)	実務経験と その関連資格	井上:病院勤務 訪問看護ステーション勤務 看護師免許 介護支援専門員免許 森川・平山:病院勤務 訪問看護師		
《授業科目における学習内容》 在宅援助論Ⅲでは、これまで学んできた全ての看護学の知識・技術を生かしながら、在宅療養者や家族にとって安全・安楽や経済性、そして継続していけるような援助を事例を通じて具体的に考え、体験していく。また、地域での生活を支えるための社会資源についてもどのようなものがあるのか、実際に調べ理解を深めていく。					
《成績評価の方法と基準》 終講試験70%(井上) 終講義試験30%(森川/平山)					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 在宅看護論 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支える技術 ナーシング・グラフィカ					
《授業外における学習方法》 ニュースや新聞、厚生労働省のホームページを閲覧し、社会情勢を理解するよう自己学習すること。アイデアなど柔軟な発想が求められる。グループワークや演習もあるため、欠席しないこと。積極的に取り組むこと。					
《履修に当たっての留意点》 在宅での具体的な援助や社会資源について訪問看護の実際を学習する。臨地実習の実際の経験と結びつけながら理解を深めること。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	①在宅で暮らす患者への清潔の援助の方法を実践できる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	授業ガイダンス 清潔援助のアセスメントと物品の工夫を考える(グループワーク)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	②在宅で暮らす患者への清潔の援助の方法を実践できる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	自宅で暮らす、清潔援助のアセスメントと物品の工夫を考える(グループワーク)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	③在宅で暮らす患者への清潔の援助の方法を実践できる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	自宅で暮らす、清潔援助のアセスメントと物品の工夫を考える(グループワーク) 演習		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	④在宅で暮らす患者への清潔の援助の方法を実践できる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	自宅で暮らす、清潔援助のアセスメントと物品の工夫を考える(グループワーク) 演習		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養の観察ポイントを述べるができる	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における栄養管理の実際(経管栄養)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅中心栄養法中の観察ポイントを述べるができる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における栄養管理の実際(中心静脈栄養法)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅における呼吸器管理の観察ポイントを述べるができる	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における呼吸器管理の実際(HOT・NPPV)		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	⑤在宅で暮らす患者への安全な環境や移動方法を考えることができる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅で暮らす患者への安全な環境や移動方法を考える(グループワーク)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑥在宅で暮らす患者への安全な環境や移動方法を考えることができる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅で暮らす患者への安全な環境や移動方法を考える(演習)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑦在宅で暮らす患者への安全な環境や移動方法を考えることができる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅で暮らす患者への安全な環境や移動方法を考える(演習)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑧在宅で暮らす患者への安全な環境や移動方法を考えることができる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅で暮らす患者への安全な環境や移動方法を考える(演習)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅で暮らす患者への排泄の援助・服薬の管理を理解し実施できる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における排泄管理の実際(ストーマ・自己導尿・バルーン管理)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	褥瘡予防について述べるができる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における皮膚・創傷管理の実際(褥瘡・褥瘡予防・ケア)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑨在宅における腹膜透析の観察ポイントを述べるができる	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における腹膜透析の実際		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	療養者と家族にとって安全・安楽や経済性・継続性を考慮した看護ケアが理解できる。	在宅看護論 地域両様を支えるケア ナーシング・グラフィカ	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅療養(看取り)・まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	災害看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期	教室名	3年教室
担 当 教 員	国立大阪医療センターからの講師	実務経験と その関連資格	国立大阪医療センター所属の看護師			
《授業科目における学習内容》						
災害という緊急状況にある対象の応じた看護のあり方を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
講義と出席状況を踏まえ筆記試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
講義と出席状況を踏まえ筆記試験で評価する						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	災害の種類と災害看護のポイントが説明できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	振り返りまとめる	
		各コマにおける授業予定	災害の種類と災害看護の理解			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	災害医療の基本やトリアージが説明できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	トリアージについて調べる	
		各コマにおける授業予定	災害医療の基本トリアージ			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	被災者のストレスとその対策について説明できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	被災者のストレスについて調べる	
		各コマにおける授業予定	被災者のストレスとその対策			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	救護者のストレスとその対策について評価できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	救護者のストレスについて調べる	
		各コマにおける授業予定	救護者のストレスとその対策			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	行政における防災体制について説明できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	振り返りまとめる	
		各コマにおける授業予定	行政における防災体制			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	災害医療活動・災害看護活動が説明できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	災害看護活動について事例を調べておく
		各コマにおける授業予定	災害医療活動・災害看護活動事例		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	災害対応について述べることができる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	振り返り学習
		各コマにおける授業予定	実際の災害対応場面		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	知識の確認		振り返り学習
		各コマにおける授業予定	まとめ＋終講試験		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護研究Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期 不定期	教室名	3年生教室・PCルーム
担 当 教 員	杉本 千恵	実務経験と その関連資格	看護師として病院勤務、研究論文投稿			
《授業科目における学習内容》						
論文作成から成果発表までの一連の過程を通して、看護研究を行うための基礎的能力を養う。具体的にはこれまでに修得した基礎的・臨床的知識をもとに科学的根拠に基づいた研究テーマを検討する。その上でグループで検討テーマに沿って現象の実態を明らかにすることで研究的な学習の進め方を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
別紙評価表あり						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
看護研究 参考文献は、授業中に適宜紹介する						
《授業外における学習方法》						
研究論文をリサーチすること 論文作成、発表のため計画的に準備・作成をしていくこと						
《履修に当たっての留意点》						
計画的に研究を進められるようにグループで協力し主体的に参加すること。また担当教員と調整を行い、研究を積極的に 行うこと。 決められた提出期限の厳守すること						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	研究テーマを検討することができる	PC、教科書、資 料	テーマにしたい論文を 読んでおくこと	
		各コマに おける 授業予定	看護研究について(看護研究の意義・テーマ検討・研究計画 書)			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	研究テーマを検討することができる	PC、教科書、資 料	テーマに応じた論文を 読んで共有しておくこと	
		各コマに おける 授業予定	看護研究の方法(研究テーマの検討・絞り込み)			
第3回	演習 形式	授業を 通じての 到達目標	グループで計画書を作成することができる	PC、教科書、資 料	計画書の書き方を復習 しておくこと	
		各コマに おける 授業予定	文献検索 研究計画書作成			
第4回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	代表的な統計分析を理解することができる	PC	指定したテキストを事前 に読んでおくこと	
		各コマに おける 授業予定	統計の基本(エクセルでできるデータの分析) BSC			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	代表的な統計分析を入力分析することができる	PC	指定したテキストを事前 に読んでおくこと	
		各コマに おける 授業予定	統計の基本(エクセルでできるデータの分析) BSC			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	研究の倫理的配慮について述べることができ、質問紙を作成することができる	PC、教科書、資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	研究の進め方(質問紙作成、倫理的配慮、データの取り扱いと図・表)		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成の進め方を述べるができる	PC、教科書、資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	研究の進め方(論文作成、抄録、発表方法)		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	グループ活動:データ収集、論文作成		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	グループ活動:データ収集、論文作成		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	グループ活動:データ収集、論文作成		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	グループ活動:データ収集、論文作成		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	発表資料の作り方を説明することができる	PC、教科書、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	発表資料の作り方(PPT作成のコツ)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	発表資料の作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	発表資料作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	論文仕上げ・発表準備・発表会資料作成		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	発表資料の作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	発表資料作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	論文仕上げ・発表準備・発表会資料作成		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究発表をクラスで運営し、グループで発表することができる	PC、資料	発表練習、発表会運営がスムーズにできるよう各担当役割の準備
		各コマにおける授業予定	研究発表会		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	統合演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3学年		学期及び曜時限	後期	教室名	3年教室
担 当 教 員	中村 晶	実務経験と その関連資格	看護師として病院勤務			
《授業科目における学習内容》						
1. 多重課題の事例を用いた演習を行い、臨床判断力の基礎を作る。 2. 今まで学んだ知識を確認するためのまとめ試験を実施し、知識習得の振り返りを行い、正しい知識を再獲得する。						
《成績評価の方法と基準》						
試験100% 内規に準ずる						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
①配布プリント						
《授業外における学習方法》						
教科書や参考書を用いて主体的に学習する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書や参考書を用いて、知識をあいまいにせず、確実な知識を獲得できるよう学習すること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	多重課題の臨床的判断の構築がわかるようになる		①配布プリント	レポート	
	各コマに おける 授業予定	多重課題の臨床的判断の構築				
第2回	授業を 通じての 到達目標	複数受け持ち時の看護について考えることができる		①配布プリント	レポート	
	各コマに おける 授業予定	複数受け持ち時の事例の演習				
第3回	授業を 通じての 到達目標	複数受け持ち時の看護について、演習を通して理解することができる		①配布プリント	レポート	
	各コマに おける 授業予定	複数受け持ち時の事例の演習				
第4回	授業を 通じての 到達目標	必修問題の正解率が50%以上、一般状況問題の正解率が50%以上で合格することができる		①配布プリント	予習、振り返り	
	各コマに おける 授業予定	第1回まとめ試験				
第5回	授業を 通じての 到達目標	必修問題の正解率が50%以上、一般状況問題の正解率が50%以上で合格することができる		①配布プリント	予習、振り返り	
	各コマに おける 授業予定	第1回まとめ試験				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	必修問題の正解率が50%以上、一般状況問題の正解率が50%以上で合格することができる	①配布プリント	予習、振り返り
	各コマにおける授業予定	第1回まとめ試験		
第7回	授業を通じての到達目標	必修問題の正解率が60%以上、一般状況問題の正解率が60%以上で合格することができる	①配布プリント	予習、振り返り
	各コマにおける授業予定	第2回まとめ試験		
第8回	授業を通じての到達目標	必修問題の正解率が60%以上、一般状況問題の正解率が60%以上で合格することができる	①配布プリント	予習、振り返り
	各コマにおける授業予定	第2回まとめ試験		
第9回	授業を通じての到達目標	必修問題の正解率が60%以上、一般状況問題の正解率が60%以上で合格することができる	①配布プリント	予習、振り返り
	各コマにおける授業予定	第2回まとめ試験		
第10回	授業を通じての到達目標	必修問題の正解率が80%以上、一般状況問題の正解率が65%以上で合格することができる	①配布プリント	予習、振り返り
	各コマにおける授業予定	第3回まとめ試験-①		
第11回	授業を通じての到達目標	必修問題の正解率が80%以上、一般状況問題の正解率が65%以上で合格することができる	①配布プリント	予習、振り返り
	各コマにおける授業予定	第3回まとめ試験-①		
第12回	授業を通じての到達目標	必修問題の正解率が80%以上、一般状況問題の正解率が65%以上で合格することができる	①配布プリント	予習、振り返り
	各コマにおける授業予定	第3回まとめ試験-②		
第13回	授業を通じての到達目標	必修問題の正解率が80%以上、一般状況問題の正解率が65%以上で合格することができる	①配布プリント	予習、振り返り
	各コマにおける授業予定	第3回まとめ試験-②		
第14回	授業を通じての到達目標	必修問題の正解率が80%以上、一般状況問題の正解率が65%以上で合格することができる	①配布プリント	予習、振り返り
	各コマにおける授業予定	第3回まとめ試験-③		
第15回	授業を通じての到達目標	必修問題の正解率が80%以上、一般状況問題の正解率が65%以上で合格することができる	①配布プリント	予習、振り返り
	各コマにおける授業予定	第3回まとめ試験-③		